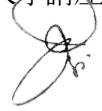


「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」

2022年3月10日

WCRP 平和大学講座

岩村義雄



目次

第2章 普遍的価値 道徳的課題

1. 道徳は国家以上の価値	1
2. 約束の地	3
3. シオニズム	6
4. 謝罪と責任	7
5. 我が不徳 — 無知で愚かな議論の失敗談	9
6. 時間に制約されない旅	10
7. 懺悔	11
8. 妙好人	12
9. レビヤタンの陰謀に歯向かう	14
10. ホルミンス	14
11. 内なる人の繰り返す良心のまひ	17
12. 御用学者に挑んだ良識のある樞の木	19
13. 価値両義性(アンビヴァレンス)	19
14. 非宗教家の悪—創造的復興, 内部被ばく, ダム, 原発の再稼働, コロナ禍のウソ	20

第2章 普遍的価値

1. 道徳は国家以上の価値 道徳的課題

わたしの信頼できる友人にはユダヤ人がいた。博識で、エンサイクロペディアのように芸術、映画、本、世界の風物について精通している。しかし、優秀であっても米国では、同調圧力の波をかぶっている。そのせいかなかなか人に自分をさらけ出さない。そんな彼らに信頼されるには数年を要する。心を許して共同歩調をとる上で、ユダヤ人の民族性について歴史から考察し、尊敬の念すら抱いていた。

日本には、戦前、戦時下において、同調圧力どころか、差別の対象になってきたオクロス¹がいる。2018年4月24日、建物の外側は右翼の街宣車がシュプレヒコールをがなっていた喧騒な時であった。金錫孝^{きよ} [1968-] (学校法人兵庫朝鮮学園理事長)、安次富浩^{あしとみ} [1946-] (沖縄平和活動家)、川村兼一 [1951-2021] (旭川アイヌ資料館長)などは、いかに人権がないがしろにされてきたかの証しが続いた²。南京大虐殺について、カナダの教育者からの発題もあった。同時通訳つきで抑圧されているマイリティー(少数者)の証言が語られた。わたしはフォーラム議長であったが、パレスチナ問題を扱わなかったことが悔やまれる。ブレザレン派に属している関係上、19世紀のジョン・ネルスン・ダービ³ (John Nelson Darby) [1800-1882]の神学の洗礼を受けた。だから、デイスペンセーション主義⁴、1948年5月14日のイスラエル共和国の建国を、旧約聖書のデイスペンセーションの成就として理解する路程を通ってきた。つまりユダヤ人のパレスチナ帰還をキリスト再臨のしるしと信じてきたばかりか、講壇から語ってきた。

「こうしてその日、主はアブラムと契約を結んで言われた。『あなたの子孫にこの地を与える。エジプトの川からあの大河ユーフラテスに至るまでの』のエジプトの川(ナイル川、それともシナイ半島のエル・アリシュ川⁵)～ユーフラテス川の間には、ソロモン王が統治した現在のシリア地方⁶(シリア・レバノン・パレスチナ・ヨルダン)、イラクの一部、サウジアラビアの一部を含む広大な区域である(創世記 15:18, 12:7)。何度、引用し、語ってきたことか。「まだ成就していません。ソロモンの時だって……再臨前に成就するんだ」と。

今日の平和大学講座は世界宗教者平和会議(WCRP)の働きである。WCRPに出席していたシリア正教アレppo大主教マー・グレゴリオス・イブラヒム⁷と個人的なやりとりをするようになった。西方教会、東方教会、正教会でない「アラブ・オーソドックス」を知って、始めて見えてきた真実がある。イブラヒム大主教は、その時、決してイスラーム教を非難せず、むしろイスラエルの侵略に懸念していた。パレスチナ問題にボタンの

¹ 第1章13ページ参照。

² 『みんなで考える“ヒューマン・ライツ”』報告資料集(「みんなで考える“ヒューマン・ライツ”」実行委員会 兵庫県民会館 2018年4月24日)。

³ John Nelson Darby [1800-1882]については、超教派ブレザレン教会の紹介しているホームページを参照。ダービは25歳の時、アイルランド聖公会で司祭に叙階される。すぐに反聖公会系のプリマス同胞教会を創立。ダービはデイスペンセーション主義者として、1948年5月14日のイスラエル共和国の建国を、旧約聖書のデイスペンセーションの成就と預言する。ダービはファンダメンタリストの源流になる『ダービ訳』聖書に基づいて携挙、前千年王国キリスト再臨説を唱えた。ダービこそ福音派の旗手であり、逐語霊感説の先生である。拙論『クリスチャンが言う「再臨」てなかに(神戸新聞会館聖書のことばシリーズ第90回 2021年12月27日1頁)。石が浮き、木が沈むような聖書理解は、『イエス・キリストの再臨』(ルネ・パーシュ著)、『地球最後の日』(ホル・リンゼイ著)、『これからの世界情勢と聖書の預言』(高木慶太、芦田拓也共著)、『レフトビハインド』(ティム・ラヘイ/ジェリー・ジェンキンス著)に顕著であろう。

⁴ Dispensation はギリシャ語 οὐκονομία オイコノミアから由来。神の人類に対する配剤、管理の歴史から援用(エフェソス 1:10,32; コロサイ 1:25)。「人間がその期間において神の御心のある特定の揭示に関して従順が試されるような一つの区分された時代」(『原スコフィールド例証・註解付き聖書』創世記 1:27)。

⁵ 『これからの聖書情勢と聖書の預言』高木慶太・芦田拓也のちのこことば社 1983年42頁)。

⁶ 拙論『人道人類歴史最大の悲劇—第2次シリア・ボスニア報告』(エラスムス平和研究所 2018年2月17日2頁)。

⁷ Gregorios Yohanna Ibrahim, the Syriac Orthodox Archbishop of Aleppo 2006年、第8回 WCRP 以降、シリア国アレppo正教会マー・グレゴリオス・イブラヒム大主教と連絡を取り合う。2012年8月3日に、シリア危機の回避のため、個人的に話し、折り合う。帰国後、当時、停戦の呼びかけ、シリア政府と、反政府勢力との和解交渉に粉骨砕身であったが、2012年8月に京都で再会した後、イブラヒム大主教の消息は不明になった。現地情報では反政府ゲリラに誘拐され、拘束されたしかつかめなかった。シリア第2の都市アレppoに、孤児の家を造るために、現地に向かった。2017年12月29日、バイルート空港でシリア国アレppo住民で家具商をしているイブラヒム大主教の忠実な信徒であるジャック&ネリー夫婦とその家族と会った。イブラヒム大主教の手がかりについては、彼らも安否が依然としてわからないと。今も緊密に連絡を取り合っている。

掛け違えは禁物である。アラブ・オーソドックスの信者たちと交友を深めるに従って、欧米側の聖書解釈に「徳」がないことがわかってきた。

欧米のクリスチャンは、イスラエルが約 1900 年の時を経て、「約束の地」に再建できたと釈義する⁸。1918 年、前述のスペイン風邪が日本をも席卷した時、内村鑑三たちは、聖書の預言が成就したと喧伝した。いわゆるシオニズムである。中東問題についてキリスト教会の最大の判断ミスがそこにある。そのことに神学者、聖書学者、教義学者も同罪である。そのせいで、イスラエルは「徳」が麻痺したまま、人類史上稀有な殺りく、占領、抑圧をアラブ・オーソドックス、イスラーム教徒、アラブ諸国に展開してきた。問題の核心は何か。「約束の地」というキーワードである。西方教会特有の解釈が世界の無知、無関心、無責任の温床になっていないだろうか。なぜナチズムはアウシュビッツで 600 万人近くのユダヤ人を殺めたのか。理由はアドルフ・ヒトラー[1889-1945]の優生思想があろう。ユダヤ人を生きるに価しない命、民族浄化へと突き進んだ。サタンの存在を認めない人であっても、凄惨な収容所跡を見学すれば、人間の所業にはどうてい思えないにちがいない⁹。人類歴史の中で、神はなぜそんな悪を許したのだろうか。「主はそれに答えてすべてのものを災いの日のために悪しき者さえも造った」、とあるように、不従順に陥ったイスラエルの民に、アッシリア、バビロニア国を用いて戒めたことが脳裏に浮かんだ(箴言 16:4)。

2. 約束の地

終末論¹⁰を 1999 年に依頼された際、「約束の地」に言及しなかった。致命的な過ちだった。終末論を論じるには、3つのテーマを黙過してはならないことに気づかせられたのもアラブ・オーソドックスの存在がわかってからだ。「約束の地」以外に、「預言の成就」、「全イスラエル」という視座についても西方神学では 180 度異なっていた。わが人生、失敗の連続である。間違った思い込みの金メダリストである。

「アブラハム契約」といった基本から検証しなおした。「私はあなたが身を寄せている地、カナンを、あなたとあなたに続く子孫にとこしえの所有地として与える。こうして私は彼らの神となる」(創世記 17:8)の「とこしえ」(ヘブライ語 עולם *owlam*)の解釈は必ずしも時間的な「永遠」を意味しないことは基本的な理解があろう。たとえば、祭司の供犠の脂、血、礼典や、安息日、十戒などは永遠にわたる絶対厳守として、キリスト者は捉えていない¹¹。デイスペンセーションナリストは別であるが。アブラハムに対して、「あなたとあなたに続く子孫」を祝福されたこと、および記念として土地を与えられたことを文字通りに受け止めるべきか自問せねば中東問題は偏ってしまう。

約束の地は、アブラハムとその子孫に与えられたをどう解釈するか、早計に判断してはなるまい。悲しいかな、英国ピューリタンの流れは、聖書の言葉をそのまま取り出して、真理だと主張する霊的心筋梗塞の症状があろう。文脈を確認しないで、自分たちの教理に都合のよいように聖書的根拠を用いる。聖書を知らない民は、聖書にそんなことが書いてあるのかと、先入主¹²を抱いてしまう。つまり固定観念になる。ベレアの人たちのように確認、洞察、検証をしない。先入観ができあがっているかどうか自己吟味が求められる。たえず聖書

⁸「ユーフラテス川は……神がアブラハムの子孫に約束された地の東の境界線でもあった」『イエス・キリストの黙示』ジョン・F・ワルブード 山口昇訳いのちのことば社 1980 年 429 頁。

⁹『目葉』誌 No.29 (2003 年 1 頁)。強制収容所ベルゲン・ベルゼンの表紙画像は人間の所業とは思えない。

¹⁰拙論『福音主義神学』No.31(福音主義神学会 2000 年)。

¹¹ sacrament の聖餐式にしても、「年ごとに罪の記憶(anamnesis アナムネーシス<想起の意>)がよみがえって来るのです」に基づいて、毎週固定して堅守するか、記憶として忘れてしまわない程度に行なうか自由な裁量権が教会単位にあらう(I コリント 11:24,25, ルカ 22:19, ヘブライ 10:3)。前述のように聖書字句拘泥主義に陥る硬直化した礼拝にならないように、いずれも教義(プロの宗教家)と現場(一般信徒)との乖離状況があろうけれども、他を非難したりはしてこなかった。自由主義神学のフリードリヒ・シュライエルマッハ[1768-1834]は、『宗教論』で、「字句に 5 拘泥する神学者たち」(Buchstaben theologen ブーフシュタビーレン)と譴責している。Über die Religion. Reden an die Gebildeten unter ihren Verächtern 1799 S201。

¹²「先入観」はあらかじめ入り込んだ固定した考えで、偏見につながる。一方、「先入主」は「先に心に入っていて自由な考えを妨げる観念」であり、自由な発想や考え方が固定観念によってできなくなってしまう。

に戻るように改革され続ける¹³という謙虚さが求められよう。ベレアのキリストの道に属する信者を見倣うべきだ。パウロが言ったからとか、大司教、〇〇センセイのエクスーシアに対しても、吟味するのがキリストの道にある者の精神態度であろう。「そのとおりかどうか、毎日聖書を調べていた¹⁴」(使徒 17:11)。ネオコン的クリスチャンは、霊的心筋梗塞の症状である。本人はまともだと信じ切っている(ローマ 10:2)。かつて自分もそうだった。ある意味で宗教、思想、信条のこわざであろう。

「約束の地」について「場」(トポス)から、土地所有について権利を保障しているのではない。次に、時間の面から「契約のしるし(אֶת בְּרִיתֹוּ オト・ヴェリス *owth beriyth*)¹⁵を考えてみたい。創世記 17 章 8 節は、「私はあなたが身を寄せている地、カナンを、あなたとあなたに続く子孫にとこしえの所有地として与える。こうして私は彼らの神となる」には、「とこしえの(オーラーム)所有地」と表現されている。アブラム¹⁶が 99 歳の時であった(1 節)。文脈は「包皮に割礼を施しなさい。これが私とあなたがたとの間の契約のしるしとなる」と、「割礼」がアブラムたちに促された(創世記 17:11)。割礼について神託が与えられた日である。西方教会は認識不足を認めない。何かというと、この時点では、イサクはまだ生まれていないことである。「イスラエルの地」(上サムエル 13:19)は、ずっとパレスチナ(ペリシテ人の地)と呼ばれてきた¹⁷。

文脈の 23 節は立証している。割礼を受けた最初の者とは、アブラムとだけだったのか。つまり「約束の地」について、「場」と時系列で有効であったのはだけか。「アブラムは、息子のイシュマエル、家で生まれたすべての者、銀で買い取ったすべての者、すなわち、アブラムの家の人々のうち、すべての男子を集め、その日、神が命じられたとおりに包皮に割礼を施した」(23 節)。「その子イシュマエルが包皮に割礼を受けたのは、十三歳の時であった」(25 節)。不動産取り引きであっても、甲と乙が当事者である。したがって、割礼のしるしを有効にしたのはアブラムとイシュマエルであった。すると 8 節の「とこしえの所有地」=「約束の地」はだれのものか。イスラエルではなく、イシュマエルである。デイスペンセイションナリストは、神は時代に応じて漸進的に計画をつまびらかにされてきたと論駁することは百も承知である。エホバの証人もすかさずイシュマエルに反論するだろう。ガラテヤ 4 章 22,23 節の「一人は女奴隷から、もう一人は自由な身の女」の「一人は女奴隷」や、29 節の「迫害」という根拠を主張するにちがいない¹⁸。だが、ハガルをギリシヤ語 παιδίσκη *paidiske* を女奴隷と訳しているが、奴隷ではなく、女中である¹⁹。またわずか 3 歳²⁰のイサクを 17 歳のイシュマエルが迫害することはあり得ないと、『聖クルアーン』²¹の脚注は述べる。サラは女中ハガルを家から追い出す。アラブ・オーソドックスやイスラーム教徒は、ハガルとイシュマエルがアブラムに

¹³ Ecclesia reformata semper reformanda [ラテン語 エクレスィア・レフォルマタ・セペル・レフォルマンダ] “改革され続ける”, “改革し続ける”と訳せる。

¹⁴ ἀνακρίνω アナクリノー <①審問する, 問いたがす, とり調べる, ②吟味する, 精査する, 調べる, ③(批判の対象にして)評価を下すの意>。

¹⁵ 契約のしるし, つまりメソポタミアにない割礼の習慣は, 国家の独立が失われ, エクスーシアがなくなりながらも, イスラエルの獨一性を保ち, 異国の支配下にあっても自分たちの特殊性を意識し続けるのに寄与した。

¹⁶ アブラムがアブラムに変わるの, 創世記 17 章 5 節以降である。「ラム」は「上げられる, 高められる」の意であり, アブラムは父(アブ)に関して, 上げられる, 高められた」と解釈されたりする。同時期, サライがサラになった。二人ともヘブライ語の אַרְאָם (「h」へー)が挿入された אַרְאָם (サライ)⇒ אַרְאָם (サラ)になった(創世記 17:15)。『イスラエル古代史』(R・ドゥ・ヴォー 西村俊昭訳 日本基督教団出版局 1986 年 283 頁)。

¹⁷ 『イスラエル史』(M.ノート 樋口進訳 日本基督教団出版局 1983 年 28-29 頁)。

¹⁸ 「相続権のことでイサクを嘲弄する言動が関係していたのかもしれませんが。『洞察』第一巻 ものみの塔協会発行 1994 年 223 頁)。

¹⁹ ハガルは, 奴隷ではなく, 女中 *servitude* と訳出 Literal Standard Version, Young's Literal Translation, Catholic Public Domain Version, Worrell New Testament。アブラムがファラオ王にサラを妹と偽った時, そうとは知らなかったファラオがサラを憐れみざるを得なくなった際, 王の娘ハガルが宮中からアブラムとサラに付いていった。“サラはファラオからの贈呈品, そして彼の娘であるハガル(ユダヤ・キリスト教の伝承によれば女中)を携えて戻ってきました。” <https://www.islamreligion.com/jp/articles/296/>, Sarah. Emil G. Hirsch, Wilhelm Bacher, Jacob Zallel Lauterbach, Joseph Jacobs and Mary W. Montgomery. (<http://www.jewishencyclopedia.com/view.jsp?artid=245&letter=S>). Abraham. Charles J. Mendelsohn, Kaufmann Kohler, Richard Gottheil, Crawford Howell Toy. The Jewish Encyclopedia. See also Genesis: 12:14-20. フラウイウス・ヨセフス[37-100 年頃]は、『ユダヤ古代誌 1』(秦剛平訳 ちくま学芸文庫 1999 年 79 頁)で, ハガルを奴隷ではなく, 「侍女」と記している。

²⁰ イシュマエルの誕生時はアブラム 86 歳(創世記 16:16), イサクの誕生時は 100 歳(創世記 21:5)。

²¹ 『聖クルアーン』 小林淳[1930-]訳 イスラム・インターナショナル・パブリケーションズ 2016 年 1203 頁)。

よって、乾燥した不毛の荒野のメッカの谷に置き去りにされた時の場面をよく説明する²²。中東訪問を通して、わたしは気づかされた。西方教会で教え込まれたハガル、イシュマエルに対する見方が異なる。アラブ・オーストックスやイスラーム教徒は、砂漠に追い出されたハガル、イシュマエル親子についてどう理解しているか。

「アブラハムよ、私たちを残してどこへ行くのですか。この溪谷には誰もおらず、何もありません。」アブラハムは歩調を速めた。最終的にハガルはこう尋ねる。「神がそうするよう求められたのですか。」アブラハムは急に立ち止まり、言った。「そうだ。」その回答に、ある程度の安寧を見出したハガルは言う。「アブラハムよ、あなたは誰に私たちを委ねるのですか。」アブラハムは答えて言った。「神のご加護に、あなたがたを託すのだ。」ハガルは神への服従心からこう言った。「私は神と共にいられれば、それで満足です。」

彼女がイシュマエルの元に戻る間、アブラハムは山間の細い道まで進み、彼らから見えなくなると、立ち止まって神へと祈った。

“我らが主よ、本当に私は自分の子孫の内の者たちを、あなたの聖なる館の傍らの、作物も(水も)ない谷間に住まわせました、我らが主よ、彼らが礼拝を遵守するために。ならば、人々の内の心が彼らへと傾くようにし、種々の果実の内から彼らにお授けください。彼らはきっと感謝するでしょう。”(イブラーヒーム²³章 14:37)。

やがてイシュマエルとハガルはアブラハムとサラの元に戻った。「約束の地」、「契約のしるし」の歴史的な権利を有しているからだ。

イシュマエルはアブラハムの息子として再三再四聖書に記載されている(創世記 16:16; 17:23,25)。「主の使いはまた言った。『私はあなたの子孫を大いに増やす。それはあまりに多くて数えきれないほどである。』主の使いはさらに言った。『あなたは身ごもっており、やがて男の子を産む。その子をイシュマエルと名付けなさい。主があなたの苦しみを聞かれたからである』(創世記 16:10,11)。聖書はイシュマエルについて、さらにどう述べているか。「イシュマエルについてのあなたの願いは聞き入れた。私は彼を祝福し、子孫に恵まれる者とし、その子孫を大いに増やす。彼は十二人の族長をもうけ、私は彼を大いなる国民とする」と創世記 17:20)。そのイシュマエルやハガルが捨てられたのは、「神なしに生きる」ひな型と思わざるを得ない。

我が民族が優れている、神の選民だから、系図によって、優劣をつけると悲劇、紛争、差別の種になる。

モアブ人の女性ルツは、「徳」のある女性として記録されている²⁴。イスラエル人ではなく、「寄留者」(ヘブライ語 גֵר *ger* temporary, dweller new-comer <難民の意>)であった。イスラエル人のボアズは、「あなたが立派な(ヘブライ語 חַיִל *chayil* <徳のあるの意>)女性であることは、町の住民なら誰でも知っています」と寄留者に敬意を払って接した(ルツ 3:11)。ダビデ王の父エッサイを産んだオベデはルツと夫ボアズの子である。神による選びは、血筋²⁵、家筋、人種によるものではない。「無」に等しい者が選ばれてきたこと

²² 『クルアーン(コーラン)』(佐藤裕一訳 ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックス 2014 年 511 頁)。『ハディース イスラーム伝承集成』(牧野信也訳 中央公論新社 2001 年)。

²³ アラブ・オーストックス、イスラーム教徒は、アブラハムをイブラーヒーム、イシュマエルをイスマイール、ハガイをハージャル、イサクをイスハークと呼ぶ。「われらはアッラーを信じ、われらに啓示されたものを、またイブラーヒームとイスマイールとヤアクブ(イスラエルの十二)氏族に啓示されたものを、またムーサー(モーセ)とイーサー(イエス)に与えられたものを、またすべての予言者たちに神様から与えられたものを信じます。われらは彼らの間に誰彼の差別は致しません。われらアッラーに帰依し奉ります」(牡牛 2:136『井筒俊彦訳』コーラン[上] 岩波書店 2004 年 35 頁)。井筒俊彦(1914-1993)言語学者、イスラーム学者、日本学土院会員。

²⁴ ルツ記 3 章 11 節を「徳のある女性」"a virtuous woman" と訳出。"The Abridged Brown-Driver-Briggs Hebrew-English Lexicon of the Old Testament" Richard Whitaker (Princeton Theological Seminary), Houghton Mifflin Company, 1906. "Brenton's English Translation of the Septuagint" Sir Lancelot Charles Lee Brenton, Samuel Bagster & Sons, London, in 1844. Brenton Septuagint Translation, King James Version, New Living Translation, Douay-Rheims Bible, JPS Tanakh 1917, Literal Standard Version, Webster's Bible Translation, English Revised Version, A Faithful Version, Young's Literal Translation, American King James Version, Geneva Bible of 1587, Bishops' Bible of 1568, Coverdale Bible of 1535, Catholic Public Domain Version, Literal Standard Version.

²⁵ 天皇家について、1867 年、岩倉具視(1825-1883)は、「皇家は連綿として万世一系礼楽征伐朝廷より出で候」と始めて用いた(「王政復古議」)。

は一貫している²⁶。しかし、「ポストコロナ」の日本で解消を論じなければならない制度に戸籍制度(1872[明治5]年の『壬申戸籍』²⁷の連続線である制度)がある。韓国も2005年には民法改正し、戸籍制度をなくしている。災害時には、「家助」が有益であると、第1章で論じた。しかし、家制度を遵守する狙いで明治政府が作り上げたヒエラルキーが「狩人」よろしく軍事遠征につながった。万世一系の天皇を親とする国体であった。民は家名、家紋、位牌を含めて、家筋という価値観によって、崇敬の念、宮城遙拝、御真影を仰いだ。

最初のエクスーシアの頂点であったニムロドは、「主の前に」、言語を統一したのは、先住民族や、周縁の民であるノアから続くアブラム、ナホル、ロト、ルゲ、テヌテ、ザバ、アルモダト、ヨバブ、エサル、アビマエル、サバ、アルフィンたちを夷狄²⁸としたかった。つまり「寄留者」は化外²⁹の民として差別、排除、苦役に用いられた。ネパール・ボランティアはもっぱらカースト制度におけるダリット³⁰の孤児たちを探して、「カヨコ・チルドレン・ホーム」を建ててきた。ヨーロッパでは、移住労働者、ロマ民族、米国のアメリカン・インディアン、オーストラリアのアボリジニ、ニュージーランドのマオリ族³¹なども反差別国際会議で論じられてきた。エクスーシアの「包摂」に従わない蝦夷³²、熊襲[曾]、隼人、土蜘蛛、国樞[栖]などに相当するグループが古今東西世界中に存在する。文化人類学において、ゲガレとして安定した秩序を錯乱する異分子、既成の文化体系を破壊する危険な要素、境界領域にあって分類できない曖昧なものとして排除されてきた。

『聖書古代誌』³³では、アブラハムはニムロド王に抗ったために、火に投げられることになった場面がある。

その文脈で、「自分たちのために決して奪われることのない町と塔を建てましょう。そして彼らが造り始めたとき、神は人の子らが造っている町と塔を目にし、おっしゃった。『見よ、民は一つで、言葉はすべての者に一つしかない。……私は彼らの言葉を分け、彼らをあらゆる地方に散り散りにしよう。』』という制度は普遍的に世界の価値観、宗教、政治と結びついてきた。一方、アブラハムは、「徳についても、他の人たちよりすぐれた見解を」抱いていたと、歴史家フラウィウス・ヨセフスは語った。

3. シオニズム

1917年の「バルフォア宣言」³⁴によって、パレスチナの地にユダヤ人が帰還することが、「預言の成就」と解釈するのはキリスト教からの視座だった。20世紀の紛争、難民、悲劇の幕が開いた。「告げ口と二枚舌を呪え。平穏に暮らす多くの人を破滅させたからだ」(シラ 28:13)。

²⁶ 神戸国際キリスト教会のホームページ「牧師コーナーより」“創造者である神は、聖書では、民、人、共同体を選ぶ際、一貫した基準がある。2千年前も、4千年前も、「無に等しい者」を選ばれた。優秀、有能、権力ある者を選んだりもしない。イスラエルをなぜ選ばれたか。(申命記 7:7)。「数が多かったからではない」ではない。そのことからはわからない。少数民族はいつでもいける。ヘブライ語 מְאִיט me'at (「無に等しい、小さい、貧しい」の意)。マアツは箴言 10 章 20 節では、「無に等しい」と訳出している。したがって、聖書で選ばれ、用いられた預言者、指導者、使徒は無に等しい者たちだった。”(1コリント 1:26-28 参照)。

²⁷ 1872 年は、壬申の年だったゆえ。ニムロドのように中央集権を実現するためには、人民の把握は緊要の事業であった。廃止されていたにもかかわらず、近年でも機多・非人・元機多・新平民という賤称を記載していた謄本を見た事務局長の土手ゆき子(神戸市戸籍課に勤務)は証言している。

²⁸ [古代中国人から見て、「夷」は東方の未開人、「夷」は北方の野蛮人の意]『新明解国語辞典』第七版。

²⁹ 王化の及ばない辺境の地に住む未開の民。「悲しかり化外(けがい)の民の如(ごと)き身を異国の短歌に憑かれて詠むは／傳彩澄」。日本の植民地時代に日本語教育を受けた台湾人の歌集「台湾万葉集」の一首。『毎日新聞』(2020 年 8 月 1 日付)。

³⁰ Dalit 不可触民(ヒンドゥー社会の中でも最下層階級「触れると穢れる人間」「困窮した人々」「押しつぶされた人々」「抑圧されている人々」)『ヴェンヌ法典』(100~300 年頃)に登場。第 4 次ネパール・ボランティア報告。http://kisokobe.sub.jp/international/9631/。宿非人、犬神人、河原者、三昧聖、乞食などの非人層をケガレ(気・枯れ)として差別してきた。『部落問題・人権事典』(部落解放・人権研究所 2001 年 282 頁)。

³¹ 拙論『技術至上主義は自然災害をもたらす—第 1 次北海道地震ボランティア報告—』(2018 年 9 月 6 日 9 頁)。
http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2017/08/6fd475dd9fe0e47f708cfd21a50a5d6.pdf。

³² アイヌ語研究の本格的創始者の金田一京助さん(1882-1971)は蝦夷はアイヌ人説を唱えた。桓武天皇※は、渡来人であった坂上田村麻呂 [758-811] はアイヌを北へ北へ追いやった。蝦夷征伐の拠点となった 13 の城が多賀城をはじめ、散在する。※桓武天皇(かんむり 737-806) 生母は百済系渡来人氏族の和氏の出身である高野新笠(たかのののい)ゆき。光仁天皇の妃。仏教政治の弊害を除くため、平城京から長岡京を経て、794 年平安遷都を行った。

³³ 『聖書古代誌—偽フィロン』(ユダヤ古典叢書 井阪民子・土岐健治訳 教文館 2012 年 20-25 頁)。

³⁴ 第一次世界大戦中 [1914-1918] の 1917 年 11 月 2 日、イギリス首相アーサー・バルフォア [1848-1930] が外務大臣だった時、金融資本家ロスチャイルド家のウォルター・ロスチャイルドに対して送った書簡には、後に三枚舌外交と言われる幾通りにも解釈できる玉虫色の戦術的な内容だった。ユダヤ人には建国を許可し、アラブ人には独立を約束した。

当時、日本では、スペイン風邪のパンデミックの中、中田重治、内村鑑三たちが再臨運動、シオニズムに精力的であったことは述べた通りである。とくに中田は、熱狂的に日本列島の津津浦浦で伝道した。「聖書の光をもって見れば、これ(軍備強化)はやがて世界の平和を乱す者をおさえつけるためと、選民イスラエルを救うために用いられるようになるのである」。「そのために日いずるところより登る天使が用いられるのである」(『中田重治全集第2巻』(聖書より見たる日本 1933年 131頁)。つまり神は日本国民を用いようとしているのであるが、これらのことは未信者ならいざ知らず、キリスト者、とくに日本のホーリネス人に恵まれていると確信することを強く促しているのである)(日本ホーリネス人の世界的使命』同 第6巻』(1929-1930年 160頁)。キリスト教シオニズムは、イギリスピューリタン、その流れであるプリマス・ブレザレン、アドベンティスト派、アメリカ生まれのものみの塔協会、末日聖徒イエスキリスト教会(モルモン教会)は、ユダヤ人のパレスチナ帰還がキリストの再臨の終わりの日の複合のしるしと解釈していった。今もそう信じているネオコンが世界の政治、外交、官僚を動かしている。

終末論において、イスラエル国の再建は神の意志、計画、約束なのだろうか。マハトマ・ガンディー[1869-1948]はまったく逆の発想である。

「パレスチナは、イギリスがイギリス人に、またはフランスがフランス人に属するのと同じ意味でアラブ人に属する。ユダヤ人をアラブ人におしつけようとするのは、誤りであり、非人道的である。今日パレスチナで起きていることは、いかなる行為の道徳的規範によっても正当化されることはない。委任統治権は前大戦で是認されたにすぎない。たしかに、パレスチナを部分的または全面的にナショナル・ホームとしてユダヤ人にもどすことができるようにと、誇り高いアラブ人を従わせるのは、人道にもとる罪悪といえよう」と³⁵。

キリストの再臨と主張するネオコンに対して、「人道にもとる罪悪」と世界の良心は訴えた。

4. 謝罪と責任

「徳」を考える上で、「責任」と「謝罪」の面から検討したい。

謝罪を基準にして、徳の保持を判断すべきだろうか。アメリカに滞在した日本人から聞いた。「交通事故が起きた場合、『アイ・アム・ソーリー』とアメリカ人に言ったら、後々不利になる」から、「保険に入っておくこと、事故の客観的な証拠、証人、損害賠償を弁護士に委ねること」と言われたが、実際は、滞米中には、アメリカ人はエレベーターなどでも迅速に、『アイ・アム・ソーリー』と言うマナーの良さをほめる内容も、他者から聞いた³⁶。権威者が謝罪の気持ちを表すとき、「不徳のいたすところ」とメディアのインタビューに応える。その謝罪を聞いた民衆は「徳」が備わった政治家だと考えるだろうか。歴史的に、教皇ヨハネ・パウロ2世[1920-2005]³⁷は、「17世紀に地動説を唱えたガリレオを異端としたことは誤りであった」と1992年に認めた³⁸。他に、「1204年に起きた十字軍によるコンスタンチノーブルの略奪についても」、彼は謝罪した。世界的宗教は自他の思想、宗教、価値観に敵対するイデオロギー的共同体である属性をさらけ出した。

第二次世界大戦、福島第一原発事故、コロナによる医療崩壊について、だれが謝罪したか。

エデンの園で、取ってはならないという戒めに対して禁則を破ってしまった時を想起してみよう。男性も女性

³⁵『わたしの非暴力1』(マハトマ・ガンディー 森本達雄訳 みすず書房 1997年 103-104頁)。

³⁶「誤解(mis-undstanding)を与えたのであれば申し訳ない」と、エクスーシアのある立場の日本の政治家が言う。受け手側の「誤解」を引き合いに出して自分を守るのは謝罪ではない。「謝罪なき謝罪」(nonapology apology ノンアポロジーアポロジー)である。自分がしたこと責任を真つすく認めることが謝罪の根幹を成す。『Newsweek 日本版』(2021年7月28日)。「謝罪の形式を取っているものの、侮辱や怒りを生み出した原因に対する責任や後悔を認めることになっていない声明」(『The Oxford English Dictionary』「真摯な謝罪(アポロジー)」になっていない無責任な謝罪“のこと。原告が責任の証拠として謝罪を使用することを制限する法律があるが、「禁反言の原則」(estoppel エストッペル・相手の言動を信頼して行動した者に対し、それと矛盾した事実を主張することは許されない)という禁則がある。とはいえ、謝罪したことが不利になることを回避する理由で、実際には、謝罪が法的な責任だと認められないことも欧米でもあり得る。

³⁷ポーランド出身のローマ教皇「空飛ぶ教皇」。イラク戦争には最後まで反対の姿勢を貫き、ブッシュ大統領を痛烈に批判。

³⁸ガリレオ・ガリレイ[1564-1642]イタリアの物理学者、天文学者。ガリレオ裁判は宗教と科学の対決ではなく、「エクスーシア」と「良識」の戦いだった。ガリレオを告発する理由は、ガリレオがエクスーシアに抗ったことだと記録から判明する。『ガリレオ裁判』(田中一郎 岩波新書 2015年 55頁)。

も、神に対して、どのような応答をしているだろうか。女性は答えた。「蛇がだましたのです。それで私は食べたのです」(創世記 3:13)。男性の方は、「あなたが私と共にいるようにと与えてくださった妻、その妻が木から取ってくれたので私は食べたのです」(同 12 節)。「啓典の民」(ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教)にとり、アダムとエバが人類の最初のカップルになる。その双方最初の二人が共に、責任転嫁をしている。人類歴史が連綿と陥りやすい悪、不正、不徳の性向がある。歴史を知ることは、構造的暴力を自覚することにつながる。

歴史的キリスト教とそれを核としたキリスト教的文明世界が、環境問題に対して重大な責任を有することは否定できない。歴史的キリスト教が人間の自然支配の結果としての今日の世界危機に対してまったく無実であると言えないことは明らかである³⁹。

たとえば、原子力発電所についても平和利用と宣伝し、積極的に祈り、地球環境にクリーンと推し進めてきた中心がキリスト教世界⁴⁰であった。致命的なメルtdown(炉心溶融)についても、責任があろう。

私たちは「責任感」欠如のエトスの感化を受けて育ってきた。神仏の御前に平然と開き直っている。もちろん神仏の存在すら一顧だにしない。神仏など斟酌しないばかりか、他者に対する責任について「さて、あなたがたは、過ちと罪とのために死んだ者であって」にあるように神の目から見て、人間の心は曇っている。道徳を体現している(エフェソス 2:1)。「悪だくみを耕す心(מַחֲשָׁבוֹת אֲוֵן *aven* <不正の, 不義>) + (מַחֲשָׁבוֹת מַחֲשָׁבוֹת *machashabot* <諸々の策略を>)」が急いで「悪(רָעָה *rah*)」に走るようにせきたてる(箴言 6:18)。「人が心に計ることは、幼い時から悪い(ラア)からだ」(創世記 8:21)。

「太陽の下、さらに私は見た。裁きの場には不正があり、正義の場には悪がある」(コヘレト 3:16)。「子ども脱被ばく裁判」の会今野寿美雄代表は、「内部被ばくのリスク」を訴えた⁴¹。「ホット・パーティクル」(不溶性放射性微粒子)は、呼吸、口、傷口などから人間の身体に侵入する。小さな金属微粒子である⁴²。「消えてなくなる粒子なのだ」、2021年3月1日、研究者、医学者が小児性甲状腺ガンなどとの因果関係を証言したが、福島地方裁判所は黙殺した。法の番人が科学的知見を無視した。被告である国や県を擁護した。法は本来、善と公平さの技術と定義されていたのではないか。「今は、人が人を支配し、災いを招く時代である」(同 8:9)。「国家」、権力者が存在している時点で、良い政治権力などありえない。エクス・シアは必ず墮落する⁴³。「イエスは一同を呼び寄せて言われた。『あなたがたも知っているように、諸民族の支配者たちはその上に君臨し、また、偉い人たちが権力を振るっている』」(マタイ 20:25)。

「政治・権威、この世の暗黒を掌どるもの、天の處にある悪の靈と戦ふなり」(エフェソス 6:12『文語訳聖書』)、という命題に生きるならば、生きる道が開かれよう。キリストは言った。「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない」(マタイ 8:20)。田中正造[1841-1913]は、1909年、深夜、素っ裸になり、独り、川で受洗。キリストと一体になり、足尾鉍毒事件で戦う決意をした。「所有品又一物なし(あたか)も広き野の中ニ裸躰して四期の気候にも無頓着ニ直立すとせば」⁴⁴、と。弁護士布施辰治[1880-1953]は、人権が踏みにじられていた在日朝鮮人のために戦った。「生きべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために」、争ふことに決心した以上は、あくまでもその決心を貫ぬくやうに結束を固めて戦ふべきで…結束の

³⁹『環境問題とキリスト教思想』(芦名定道『日本の神学』日本基督教学会 1997年 102頁)。

⁴⁰拙論『共苦一被災地福島を訪問して』(大阪朝俣会 2014年 9月 8日 3頁)。

<http://kicc.sub.jp/2014/10/12/%E3%83%95%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%9E%E5%8E%9F%E7%99%BA%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%85%B1%E8%8B%A6/>

⁴¹「阪神宗教者の会」で今野寿美雄は内部被ばくについて語った。『神戸新聞』(2020年 10月 27日)。ホット・パーティクルも新型コロナウイルスも目に見えない。外出にはマスク着用をしていないと、「自粛警察」と呼ばれる市民からの攻撃対象となろう。しかし、道ばたの砂埃の放射性物質を吸わないようにマスクをすると、「風評被害を招く」としてフクシマでは注意される。コロナ禍による感染はすぐにわかる。一方、ホット・パーティクルの吸入による健康影響が出るのは数年後、数10年後である。「田・山・湾の復活」の「復活」とは、「復興」が含まれる。田中正造[1841-1913]は、「天災にあらざれば、回復する事を期して去らず」と言った。『田中正造全集』第11巻(田中正造全集編纂会 岩波書店 1979年 456頁)。人災ならば、大地に生命を戻すことが人間の責任であることを促している。したがって、心の復興だけでなく、治水、地勢、隣人愛が求められる。「隣人」とは、人間だけでなく、「無機物、動物、植物、否、地球上のすべてと言えよう。無機物にホット・パーティクルが含まれることは言うまでもない。

⁴²拙論『女川原発再稼働は科学への裏切り』(神戸新聞会館 2020年)。

⁴³『アナキズムとキリスト教』(ジャック・エリュール 新教出版社編集部訳 新教出版社 2021年 123頁)。

⁴⁴『田中正造選集 第六巻』(田中正造 岩波書店 1989年 24頁)。田中の行動は、組織と共にはなく、単身、神の前で決意し、エクス・シアと戦う。

中へ死んでも踏みとどまるべきである」⁴⁵、と一回限りの人生において、エクスターシアに抗うことに燃焼させた。黙想、熟考し、行為するまでに至ると轍を残した。

朝鮮人こそ、日本のキリスト者の真偽をみわける“試金石”だ、と農学者の飯沼二郎[1918-2005]は述べた⁴⁶。

5. 我が不徳 — 無知で愚かな議論の失敗談

アフリカなど被災各地を巡る時、現地の人たちの生活に溶け込めば溶け込むほど、日本人のせかせかした生き方に気づかされる。日本の効率、能率、便利さの短所、欠陥、異常さは不健康症状である。

2020年1月、10回近くのトランジット(乗り換え)を経て、飛行機でおよそ38時間、バスは約15時間でガーナ国のワという地に到着する。ワでの孤児の家(「カヨ子基金」)の開所式の後、タンザニアに向かった。その前の年6月、エチオピア航空はガーナ国アクラからアジスアベバで乗り換える予定が、エンジントラブルによって、進路を変更し、ザンビア国に向かった。首都ルサカで一泊せざるを得なくなった。航空会社が宿泊、食事を負担。空港カウンターでおよそ300名は長時間、並び疲労困憊の途方にくれた。足止めになり、空港で日本行きの便を探すが、長蛇の列である。エチオピア語、アフリカ各国の言葉、英語のスクランブルでどこの航空会社のカウンターも子どもの泣き声、払い戻し、他の便探して騒然としている。立ちづくめで、老いも若きもうんざりという表情である。国籍、年齢、性別に関係なく初対面でも、目で話し出す。いわゆる非言語コミュニケーション⁴⁷である。いつ何が起きるか、人間は予測できない。列で順番を待つ。

伝道熱心なアフリカ福音派系の宣教師が盛んに、「そして、この御国の福音はすべての民族への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る」と列の前後の人たちに、英語で伝道を始める(マタイ24:14)。小さな新約聖書を片手に、黙示録の青い馬、赤い馬について口角泡を飛ばしながら語る。交渉に疲れ切っている多くの人たちはだれも真剣に聞こうとはしていない。時間つぶしと言えば、失礼だが、30歳前後のエチオピアの宣教師に、「千年王国が間近である、と言うグループはいつの時代もいたのではありませんか」と私は放った。相手は急に柔和な表情になった。わたしを良き求道者と思ったのだろう。次々と暗誦している聖句を繰り広げる。悔い改めて、キリストを信じ、回心するように迫ってきた。米国や韓国式のファナティックな伝道スタイルがそこにあった。日本でも、末日聖徒イエスキリスト教会、ものみの塔協会、顕正会など、熱心な布教グループもある。東日本大震災直後に、仙台でも「キリストを信じなければ地獄へ落ちる」と拡声器の音量が揚げられているのを聞いた。宮城県丸森町に本部がある集団生活をするキリスト教グループである⁴⁸。見聞きする群衆には違和感、奇異、狂信的としか映らないだろうに、と臍をかんだ。彼らの配布する資料に登場する既存のキリスト教会の聖職者は牙や角があり、明らかにサタン側と描写している。わたし自身がエホバの証人であった時、同様に十字架の立つ教会を敵視する二元論⁴⁹思考であった。わたしは、エホバの証人神戸市明舞会衆で、キリスト教会を廃会にするために40歳近くまで、他の宗教には救いはないと伝道に明け暮れていた。話が脱線してしまった。

本論に戻そう。4時間も空港のロビーで立ったままなので、宣教師に少しだけ自らの聖書観を証しすることにした。立て板に水のごとく語る宣教師に、一瞬間の間をすかさず捕らえて、申しあげた。「イエスは農夫で

⁴⁵ 布施辰治『著作集』第九巻 ゆまに書房2008年346頁。

⁴⁶ 『これらの最も小さい者のひとりに』(飯沼二郎 未末社1982年95頁)。キリスト者飯沼は、農業基本法施行(1961年)後に、普及した欧米型の少品種大量生産に疑問を抱いた。経済優先の農業政策を批判。裏作や間作を複合的に行う伝統的な日本型農業への回帰を説いた。神戸国際支縁機構の「田・山・湾の復活」にこり、開拓者的な存在である。

⁴⁷ 非言語コミュニケーション 表情や視線、姿勢など「動作で表れるもの」と、声の大きさや話す速度など「言葉を発する際に表れるもの」、また、相手との間にある距離感のように「空間に表れるもの」。

⁴⁸ 宮城県丸森町に本部を置く。全国にキャラバン隊を差し向け、正月など、神社や人の集まるところで、参拝者が多い時に、拡声器を用いながら録音したメッセージを流し続ける。親のない子どもを引き取り、ホームスクールで教育する。語学なども身につけさせ、大人びやり、海外で伝道活動ができるように訓練する。「聖書配布協力会」という団体名がある。看板設置と伝道のため、3ヵ月交替制で50人ずつのチームが、俸給を得る仕事をする部隊と二手に分かれて活動。拙稿「キリスト教と災害—第106次東北ボランティア報告—」(2020年5-6頁)。http://kisokobe.sub.jp/tohoku/15939/

⁴⁹ 拙稿『目録』誌No23(2001年3.5頁)参照。

あって、西暦一世紀にすでに4種類の土に種を蒔かれたのではありませんか(マタイ 13:3-9)。伝道より、収穫こそが宣教の目的ではありませんか」と言葉が続けた。論争するつもりではなかったが、相手の目の色は一瞬、情熱がひるんだ。私はひるまず続けた。「しかし、私は言うておく。目を上げて畑を見るがよい。すでに色づいて刈り入れを待っている』とキリストがおっしゃったのは、人々を回心させる種蒔きより、収穫と示唆されていませんか」と(ヨハネ 4:35)。彼はしばらく押し黙ったが、切り返した。「それでは、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がいなくて、どうして聞くことができるでしょう」と自信を取り戻しどうだと言わんばかりに持論を語った(ローマ 10:14)。次のように応えた。「ありがとうございます。よく聖書に精通しておられますね。ところで、文脈はどう書かれていますか。10章の20節をお読みいただけますか」と尋ねた。相手が読み終わったことを確認してから、言った。「私を求めない者に私は見いだされ 私を尋ねない者に現れた」と書かれていますね。宣教師に語りかけた。「あなたは聖書をたくさん暗記し、おそらく試験に合格なさり、伝道し、信者をふやしておられる方なのでしょう。しかし、キリストが誰かを回心させた記録は聖書にはないのではありませんか」。すると最後の信仰の砦を守るように、「ノー、イエスを信じて、洗礼を受けなければ救われません」と得意満面に告白した。「はい。ところで、パウロは、『キリストが私を遣わされたのは、洗礼(バプテスマ)を受けるためではなく』と言いませんでしたか、また『クリスポとガイオのほか、あなたがたの誰にも洗礼を受けなかったことを、私は神に感謝しています』と証していませんか(Ⅰコリント 1:17,14)」と続けて、「たとえ伝道する者がいなくても、神様は石が叫ぶように導かれる方と考えるのはまちがっているでしょうか。呻き、苦しみ、貧しい人々に現れる救い主が必要ですね。別にキリスト教会に行かなくてもお会い出来るのではありませんか」と言い終わらない内に、彼は人混みの中で見えなくなってしまった。

自分の知識をひけらかしたことを痛烈に悔いた。なぜなら論駁することは、「愚かで無知な議論を避けなさい。それが争いの元であることは、あなたも知っているとおります。主の僕たる者は争わず、すべての人に優しく、教えることができ、よく忍び、反対する者を柔和な心で教え導かねばなりません」を忘れていた所業であったからだ(Ⅱテモテ 2:23-25)。

この個人的な体験は知識の自慢のために分かち合っているのではない。「知識は人を高ぶらせるのに対して、愛は人を造り上げます」と言われている通りである(Ⅰコリント 8:1)。宗教者ならば、エクスターシアと同じスタイルで上からものを申すべきではない教訓である。いつもへりくだって、弱者と共生していく必要がある。私の思い上がりや愛のなさで落ち込んでいたとき、ホテルへのバスに乗り込んだ。失敗をなだめてくれたのは、タンザニアへの招待だった。空港カウンターでタンザニアのダラリ・ピーター・カフム議員や、ネルソン・アンソニーと知り合ったことである。タンザニアの孤児を紹介して下さるということで、道が開かれた⁵⁰。実りのない論争をした後味の悪さのいやしとなった。ザンビア訪問、1日余分に遠回りをしたおかげで、思いがけない友人ができた。速い飛行機、スムーズな乗り換え、ゆとりのない足早の行程では会えない人たちとの出会いが生まれた。

6. 時間に制約されない旅

ネパール、バヌアツ、トルコでも、同様の体験をした。バス、乗り合いタクシー、リクシャー⁵¹で移動する時間、

⁵⁰ 拙稿「タンザニア・ボランティア」(2020年1月4-8日) <http://kisokobe.sub.jp/international/16189/>

⁵¹ 「人力車」を語源とする人力の乗り物、もっぱらインド、ネパールで見かける安価な乗り物。拙稿「ネパール大地震 神戸から第1次救援 Nepal」(2015年) <http://kisokobe.sub.jp/international/6989/>

空間の拡がりは無から有を生じる真理契機と言える。バベルの塔の現代版「リニア」⁵²、「コンコルド飛行機」⁵³、秒速を競う乗り物ならば、ボランティア道ならではの思いがけない「対話性」が生まれにくい。巨大プロジェクトリニア建設では区間の86パーセントがトンネル。2004年に、上越新幹線を脱線させた地震M6.8規模が、乗車中に起きたらリニアは大惨事になる。だれも避難できる術がないからだ。「公共事業」の専門家橋山禮治郎[れいじろう 1940-]⁵⁴は警告する。リニアは安全性失格である。国家100年の愚策だ。世界中でどこにもない超伝導磁気浮上式のリニア計画は、形骸化した審議会の答申を受けた国土交通相大臣の一存でいとも簡単に承認された。閉鎖性について憂慮すべきではないだろうか。新型コロナウイルスと同様、リニアについて御用学者⁵⁵がコメンテーターになり、エクスーシアに対し批判しないならば問題である。超音速機コンコルドの二の舞になることがあってはいけないからだ。コンコルドは英仏のエアラインが共同で開発した。音速の2倍近い最高速を誇る旅客機。1969年に初飛行。1976年から2003年まで定期運行だったが、墜落事故により、環境対応性において安全性、低騒音、低燃費に失格であったことが判明した。

1910年頃、ガンディーは、「鉄道なんて要らない」と言った⁵⁶。今、スピードの結晶の一つである「デジタル化」が地球を滅ぼすという声もあがっている⁵⁷。

災害時の「自助・共助・公助」についてニューヨーク市立大学リーマンカレッジの哲学の教授ナオミ・ザックは、『災害の倫理』を著した⁵⁸。

ザックは、窮極の選択が求められる状況において、義務論と帰結主義のいずれを選ぶにしても、正しい決定かどうかは、参加者とリーダーの徳に対する私たちの信頼度に依拠する、と述べる。さらに、徳は、長期にわたる行動の傾向性・性格特性であり、生得のものではなく習得されるものである、と追記する。

「ポストコロナ」にあつて、歴史の真実が、人類の価値観を樹立する責任を迫る。これまで自国のみならず、世界の政治、経済、社会などに関して、エクスーシアを行使する政治的課題の歴史的反映を考慮してきた。次には、権威者、権力者、産(事業者)、官(県・県警・県教委)、学(学識者・医療関係者)、民(青少年団体)、言(新聞、テレビ)の「徳」を論じたい。コロナウイルス後の人類がどのように生き残るかの成否は心であらう。

世界大戦前のキリスト教会が体制に呑み込まれ、天皇国体説、在日朝鮮人差別、エクスーシアの発言に無批判一辺倒を再現しようとしている。いわゆる戦時下の妥協である⁵⁹。むしろ宗教界は、エクスーシアの「車輪に歯止め」をすべきだろうに。

7. 懺悔

日本で最も信者数を擁するのは浄土系の仏教である。親鸞の有名な懺悔がある。「まことにしんぬ。かなしき

⁵²「悪夢を実現してはならない。リニアは原発と同様、総工費9兆円で一握りの関連企業を潤すだけ。地方の経済をどん底に突き落とす悪政。拙論『キリスト教とボランティア道』(同13頁)。

<http://kiccsbjp20160502/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%A8%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2%E9%81%93/>

⁵³コンコルド墜落事故[2000年7月25日超音速旅客機113名死亡生存者0]エール・フランス2003年5月コンコルドを終了、ブリティッシュ・エアウェイズ2003年10月24日にコンコルド退役。

⁵⁴経済学者。アラバマ大学名誉教授。専門は政策評価、公共計画。『リニア新幹線 巨大プロジェクトの「真実」(橋山禮治郎 集英社新書2014年147,186頁)。

⁵⁵拙論「レビヤタンの正体②」(2020年4,6頁)。「公共事業推進の御用学者からダム賛成、リニアが日本を救う、宇宙開発が益になるとさかんにテレビ、SNSや書籍などで聞いたとしても、日本全体が立ち止まって考える習慣を身につけなければなりません。テレビでもはやされる学者が言っているからといって、虚言を鵜呑みにしない判断力が必要です。」

⁵⁶『真の独立への道』—ヒンド・スワラージ(MKガンディー岩波文庫2001年60-61頁)。「人間は自分の手足でできる範囲内だけ、行き来しなければならぬように生み出されている。……もし私たちが鉄道などの手段で奔走しなければ、たくさんの込み入った問題はない。……人間は鉄道を利用し神を忘れてしまったのです。」

⁵⁷『LeMONDE diplomatique』(Oct. 2021) Guillaume Pitron『ル・モンド・ディプロマティーク』(2021年10月号ギョーム・ピトロン)。

⁵⁸『災害の倫理—災害時の自助・共助・公助を考える』(ナオミ・ザック 高橋隆雄・阪本真由美・北川夏樹訳 勁草書房2020年44-45, 262頁)。

⁵⁹拙稿『神戸と聖書』(同209-212頁)。

かな^{ぐとくらんあいよく}愚禿鸞^{こうかい}愛欲の^{ちんもち}廣海^{みょうり}に沈没し、^{たいざむ}名利の^{ちようじゆ}大山に迷惑して、定聚のかずにいることをよるこぼず、
眞證^{しんしょう}の證^{しょう}にちかづくことをたのしまず。はづべしいたむべし。⁶⁰」

国際日本文化研究センター元所長の山折哲雄 [1931-] は注解している。自分は「愛欲の広海」に沈没する悲しい愚者である。名利の世界に迷い、本心では浄土への往生も仏のさどりの境地ものぞんではいない愚かな人間である。ああ、何ということだ。恥ずべし、傷むべし……。と⁶¹。

3.11以降、わたしは神戸新聞社から連続講座『死』を考える』を依頼された。山折は講師のひとりであった⁶²。申込み者の数は最高数であった。主催者として親鸞恐るべしという印象を持った。

親鸞の懺悔の言葉は現代人にも響く。自己否定をひびかせる懺悔の告白。このように激しい自己否定は、パウロがローマの信徒への手紙で語っている内容と同一であろう。

「私は、自分の内には、つまり私の肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はあっても、実際には行わないからです。私は自分の望む善は行わず、望まない悪を行っています。自分が望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはや私ではなく、私の中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分に、いつも悪が存在するという法則に気がきます。内なる人としては神の律法を喜んでいますが、私の五体には異なる法則があって、心の法則と戦い、私を、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのです。私はなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、誰が私を救ってくれるでしょうか」(ローマ 7:18-24)。

西暦一世紀の初代教会で宣教の第一人者であったパウロですら、自分の内にある悪を制御する「徳」がないことを嘆いている。つまり、徳は他国人に対して優生思想をもちえない。植木 枝 盛 [1857-1892]⁶³、田中正造、石橋湛山 [1884-1973]⁶⁴ のように小国主義の政治観であるはずだ。教育勅語の本質として天皇に価値を収斂させることは危険なのは言うまでもない。

親鸞、パウロも自分に徳が宿っているなどと誇っていない。したがって、信仰、信心、悟りゆえに「救われた」、「罪赦された」、「永遠の命」をもっているかのように吹聴しないだろう。自己救済を他者に強制することは人倫に反するだろう。独善、近視眼的な教育が宗教戦争の発端となってきた歴史を教訓にできまいか。

ローマ・カトリック教会にとり、「徳」とは、「善を行う堅固な習性 ^{habit} ^{habit} です」と教える。「習性」ということは、一回限りのものではなく、継続していく特質である。その結果、ラテン語 ^{habitus} ^{habitus} 「持つ、持つようになったもの」で、「徳」(英語 *virtue* ^{ἀρετή} ^{arete} アレテー *arete*) は身につくようになる。「なお、きょうだいたち、すべて真実なこと、すべて尊いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判のよいことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい」(フィリピ 4:8)。プロテスタント教会は、基本的に外典と偽典を靈感がないとして読まない。その結果、他の宗教者がたいせつにする「徳」をあまり強調しなくなってしまった。しかし、「ポストコロナ」にあつてプロテスタント教会は「徳」の霊性を真剣に求めるべきだろう。さもないければ、過去の遺物のような扱いになるかもしれない(マカバイ記 II 6:31,15:12,17, 知恵の書 4:1,2,5:14,8:7, シラ書 42:13,14, エズラ記(ギリシャ語) 1:40,47)。エクスーシアによって抑圧され、怒り、苦しみ、くやしきの辛酸を味

⁶⁰ 『顕浄土真実教行証文類』『教行きょうぎょう信証しんしょう』の略(親鸞浄土真宗の根本聖典 1224 年成立と伝えられるが不明 東本願寺出版部 1978 年 信巻『真宗聖典』251 頁)。

⁶¹ 『教行信証』を読む—親鸞の世界へ—(山折哲雄 岩波新書 2010 年 109 頁)。

⁶² 平安から鎌倉の時代、比叡山や高野山の僧たちは死期を悟った最晩年、1 週間くらいの断食状態に入りました。幻覚で阿彌陀如来が近づいてきて「お前も浄土に行ける」と頭をなでられるのが理想の往生だったそうです。山折哲雄は次なることばを流し出した。23 歳で出家した西行はこう詠みました。「願はくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ」『神戸新聞』(2012 年 2 月 9 日 『死』を考える)講座)。

⁶³ 植木枝盛(えもり)という政治家は、1881(明治 14)年に私議憲法を發題。拙稿「ノーベル平和賞受賞を逃して」(『憲法 9 条をノーベル平和賞に推す神戸の会』(略称 推す会))。

⁶⁴ 元首相「或る一部から多大の希望を囁せられて東京市長の椅子を占めた阪谷芳郎は、その就任最初の第一の事業として、日枝神社への御詣りをした。それから第二の事業として明治神宮の建設に奔走しておる。そうしてその第一の事業もなかなか世間の賞賛を博したが、第二の事業はまた素晴らしい勢いで、今や殆ど東京全市の政治家、実業家、学者、官吏、それからモップの翼賛する処となつておるようである。」(『石橋湛山全集』第 1 巻 東洋経済新報社 1971 年 232-3 頁)。

⁶⁵ 『カトリック教会のカテキズム』(カトリック中央協議会 2002 年 542 頁)。

わっている人々に感情移入することもなおざりになったりしてはいまいか。なぜなら自己救済で完結しているからである。もうキリストの言葉に満腹感があり、探究することもやめて日常茶飯事にかまける。「コイノニア」と言ってケーキとお茶で時間をつぶし、教会のゴシップに明け暮れる。コイノニアの語源は、本当の貧しい人、抑圧されている(*oppressed*)人々に、「喜んで感情移入する」することである。イエスが言った、『すべてを知っていて、自己に欠けている者は、すべてのところに欠けている』(トマス 67)。自己を知らない者は貧困であろう。コイノニアがプロテスタント教会内の信者同士の特有のおしゃべり会の用語になっているのは非聖書的ではないか。「善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与える(*κοινωνικός* コイノウニコス)ように」という本来の意味に従って、「施与における共同参加」を進んで実践したいものである(I テモテ 6:18)。「被差別部落」⁶⁶というアウトカースト、「寄留者」(ヘブライ語 *גֵּר* *gerl* temporary, dweller new-comer <難民の意>)、路上生活者を受け入れることは、大悲=アガペー愛に基づく。ボランティア道の対象になる寄留者とは、難民、制度の恩恵を浴していない貧者、孤児たちになろう。

8. 妙好人

近代日本最大の仏教学者の鈴木大拙[1870-1966]⁶⁷も、「徳」について説いている。

「人間として何をするのが一番大事かという、悪を無くしようとする努力、善を出来るだけ余計にしたいという努力、そのことに生きていくのである。その生きていく点から見ると、無限も無量も何もなしに、南無阿弥陀仏そのものになる、そいつを妙用みょうようといいたいんだ。善も悪もあるところに、真空妙有みょうゆうとはいわないで真空妙用といいたいものがある。用といい、はたらきというところに人間の安心がある。そこに極楽があるんだ」⁶⁸。コロナ後の人類が覚醒する道ではないだろうか。松末へボランティアでお目にかかり、ご支縁いただいている浄土真宗⁶⁹の藤 玄洋(朝倉市西宗寺)住職に現代の九州における妙好人について話を聞いた。必ずしも、高学歴、有資格、専門家とは限らない門徒の中から人々から尊崇を受けてきた「妙好人」について注目したいよう。

浄土系信者の中で特に信仰に厚く徳行に富んで居る人を妙好人と云って居る、と鈴木大拙は「妙好人」について紹介している。わたしが属している教会グループ⁷⁰はホームページで、教会の特色をキリスト教版妙好人の集まりと称している。「路上生活者(ホームレス)」、「統合失調症、分裂症、うつと言われた方々」や「だった方たち」で構成されている神戸で最も小さな教会である。牧師であるわたしについても一切、表彰されたこともなければ、著書も、資格もない無冠の帝王、否、奴隷⁷¹である。しかし、「霊性」と「宗教」の相違⁷²を会得している。なぜかという、ボランティア道の「はたらき」が妙好人のようにさせたからである。

妙好人の証言⁷³

「ねんぶつは 慚愧 歡喜 の絶えなしの 佛
なみだのなせる佛。」

⁶⁶ 日本のキリスト教会が犯した三つの弑し 去ることのできない 罪がある。朝鮮人差別、「被差別部落」分け隔て、沖縄問題があげられよう。拙稿『神戸と聖書』戦時下のキリスト教神戸新聞総合出版センター 2001年 209頁。

⁶⁷ 鈴木大拙は仏教学者 西田幾多郎と出会い、生涯の友。「近代日本最大の仏教学者」(梅原猛による)。日本で最初に「霊性」という言葉を用いた。

⁶⁸ 『鈴木大拙一人と思想』(久松真一・山口益 岩波書店 1971年 155-156頁)。「真空妙用」とは、真空、何も無いところから、妙なる働きが出る。

⁶⁹ 浄土真宗(じょうどしんしゅう)の略。

⁷⁰ 超教派プレザレン教会のホームページ紹介:「お百姓さん、木こり、漁師のように肉体労働に従事する庶民の味方です。牧師は有能でなくても、雄弁でなくても、無学であってもよいのです。初代教会のキリスト自身、弟子たちも、ワルド派やプレザレン派の初期の指導者も名もない人々でした。(ヨハネ7:15;使徒4:13「無学な」ギリシャ語 *ἀγράμματος* *agrammatos* は「公認の専門教育を受けていない」の意。)」

⁷¹ 「主にあって召された奴隷は、主によって解放された者であり、同様に、召された自由人はキリストの奴隷だからです」(I コリント 7:22)。

「人の機嫌をとろうと、うわべだけで仕えるのではなく、キリストの奴隷として、心から神の御心を行い」(エフェソス 6:6)。

⁷² 宗教についてはどうしても霊性でも云うべきはたらきが出てこないといいたくない。すなわち霊性に目覚めることによって始めて宗教が変わる。『鈴木大拙全集第8巻』鈴木大拙 岩波書店 1981年 22頁。

⁷³ 妙好人のひとり 浅原才市[さいち 1850-1932] 島根県石見(いわみ)「日本的霊性」として鈴木大拙が世界的に紹介。『鈴木大拙全集第8巻』171-216頁。

慚愧が即ち歡喜、歡喜が即ち慚愧—この絶間なき交錯が直ちに「なむあみだぶつ」である。「なむあみだぶつ」であるが故に、この才市はそのままで、慚愧と愚癡と間しとを意識しつつ、歡喜の佛なのである。靈性的直覺とは此矛盾を矛盾として、而かも矛盾でない^{しやり}と直覺することである。這裡の消息はまた左記によりて窺ふことができる。才市は歌ふ、

「慚愧のこゑんにあうときは、
ときもきもあさましばかり、
これがくわんぎ(歡喜)のもととなる。聯の体験である。何もあれか
なむあみだぶのなせるなり。」

如何にも矛盾に充ちた表現である。^{あさまし}浅間敷い此凡夫であるので慚愧する。浅間敷いと自覚することの出来るのが御縁である。御縁がないと自覚出来ぬ。而して此自覚が即ち歡喜の本である。歡喜それ自体である。浅間敷自分—慚愧—歡喜「なむあみだぶ」、これは一らこれ、これからそれと、直線的に連鎖するのではない。何れも同時の出来事である。それが個己の意識の上で分析せられると、慚愧と歡喜と云ふ矛盾して相容れざる情性的な心象になるが、それを性の面から見ると、慚愧と歡喜、浅間敷さと「なむあみだぶ」何れもが渾融して立的或は圓環的なものとなる。この當が「南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛」なのである。南無阿彌陀佛が南無阿彌陀佛を喜ぶことになるのである。或は念佛が念佛を申すなりと謂つてもよい。

「この法は慚愧法、ざんぎ法なら歡喜法、
くわんぎ法ならなむあみだぶつ。」

慚愧・歡喜・「なむあみだぶつ」と、^{えんかん}圓環の端なきが如くに繋がれて居る。どれか一つが學れば、その他は自らついて上ってくるのである。(円環とは、丸く繋がった輪のこと。『新明解辞典第7版』)ざんきとくわかぎ、くわんぎとざんぎ—これが二つでなくて一つ、一つで面かも二つ、一即多で多即一。これを矛盾の面から見ると收拾(しゅうしゅう)すべからずであるが、さうでない面があるので、吾等の生活はつづけられるのである。それを慈悲、「なむあみだぶつ」の慈悲と云ふのである。才市の一生はいつもこの「なむあみだぶつ」が中心になって居る。

7. レビヤタンの陰謀に齒向かう 観念から実践へ

昆虫少年であったわたしは大人になっても蝶に関心があった。蝶を見るために訪れた兵庫県伊丹市^{いたん}昆陽昆虫館近くに昆陽寺がある。真言宗の僧行基[ぎょうき/ぎょうぎ 668-749]は、昆陽寺院や、橋、池、救護施設を建造した。とりわけ病人に寄り添ったことで慕われている⁷⁴。日本人から最も親しまれ、菩薩と言われている宗教者が独りで取り組んだ。いわば利他を^{みずか}実践するボランティア道の先輩として尊敬してやまない。わたしにはとても真似できないはたらきであった。「親ら弟子らを率ゐて^{もろもろ}諸の要害の処に於いて橋を造り隄^{つづみ}を築くに、聞見の及ぶ所は、咸く來りて功を加え、不日にして成る」⁷⁵。天皇に仕える官僚たちの遅刻・欠勤・職務放棄など目に余る所業の数々⁷⁶。怠慢の役人氣質は模範とした中国、朝鮮でも現代にまで連続と続く体質があった。貧窮している病人をケアするため^{こうみょう}光明皇后[701-760]の博愛精神は際立ってい

⁷⁴ 行基「行基年譜」には、行基は、「橋6カ所」、「池15カ所」、「堀川4カ所」「救護施設9カ所」等と記録がある。神戸の大輪田泊(おおわだのとまり)建設。「両親とともに百済系渡来人」父は「王仁」の始祖一族。『記紀』。5世紀初め「百済から倭国へ渡来」し千字文や經典を伝えた。学問の祖として崇敬され、枚方市には「王仁王墓」があり、大阪市内には「王仁神社」。母方の「蜂田氏」は「蜂田薬師氏」の一族。「薬師」とは今日でいう「薬剤師」「医師」のこと。『続日本紀』に「蜂田薬師氏は百済人なり」とある。『行基』(井上薫 吉川弘文館 1963年9-10頁)。

⁷⁵ 『行基』(同37頁)。あ

⁷⁶ 『古代日本の官僚—天皇に仕えた怠惰な面々』(虎尾達哉 中央新書 2021年17-20頁)。天武天皇[てんむ?686]壬申の乱に勝利して即位。673年「大舍人」(官僚登用制度を創設)。675(天武4)年4月17日に最初の肉食禁止令。縄文時代からの狩猟から農耕生活に移行する。

る。彼女は723年以降、悲田院^{ひ でんいん}と施薬院^{せ やくいん}の二つを設立したりしていた⁷⁸。

禅宗は座禅を組み、瞑想に専心しているが、働きである。単なる静的な世界ではなくて、働きの中に禅がある、ということもあるかと。大拙はよく「無分別の分別」という言葉を使った。それも一種の働きの世界である。あるいは「真空妙用^{みょうゆう}」とも言う。真空、何もないところから、妙なる働きが出てくる。大拙はこれを非常に愛した。そういふ働きのところに禅がある、ということも物語っている。仏教で「真空妙有」という言葉がある。『般若心経』に「色即是空・空即是色」⁷⁹とある。空からまた色に蘇る。それを「真空妙有」というわけである。空と一つになった現実(現象)の世界という。しかし、大拙は「真空妙有」ではだめだ、働きがない、働きが出てこなければダメだ、「真空妙用」まで出てこなければダメなんだと、宗教哲学の研究者竹村牧男[1948-]は解説した⁸⁰。

9. ホルミス

妻岩村カヨ子は、3.11以降、東北ボランティアへわたしを送り出し、留守の間、神戸国際支縁機構の事務所を守っていた。2016年に末期ガンのせいで、骨にまでガン細胞が浸潤して、痛みを訴えていた。兵庫県立がんセンターで腎盂癌について術後、もう治療の施しようがなかった。自宅療養で、死を待つ⁸¹。24時間、モルヒネ系の鎮痛剤でも激痛が和らがない。そんなとき、「放射線ホルミス」という耳慣れない言葉を聞いた。ホルミス⁸²という考え方は1982年、アメリカのトーマス・D・ラッキー博士(ミズーリ大学名誉教授)が世界で初めて提唱した言葉。彼の書物からラドン温泉の放射線がよい、放射能をこわがるな、という福音を知った。続けて、『「放射線は怖い」のウソ』⁸³の服部禎男[1922- さだお]が電力中央研究所⁸⁴を立ち上げたことにより、米国のエネルギー省が1985年に一定の信頼性があると確認したという内容であった。大阪大学名誉教授の中村仁信^{ひろのぶ}氏が書いた『鶯の声』シリーズ(2014年)を読み、驚いた。彩都友誼会病院長である中村は、「少しの放射線は体にいい トリカブトも微量なら漢方薬」、「必要な強制避難と放射能恐怖の代償」、「福島を原発の風評被害から救え」と発信していた⁸⁵。家族の成員が癌診断されている場合、グッド・ニュースである。なぜなら本人の痛みを代わってあげられないもどかしさに打ちのめされているからだ。一方、その5年前からフクシマ被曝でボランティアをして低線量被ばくの危険性を繰り返し現地で見聞きしていた。小学生が学校でとつげんに鼻血が出る、階段を登ると目眩がする、100万人にひとりと言われる小児性甲状腺ガンにかかる子どもたちの数は12人(2011年6月)→43人(2013年4月)→74人(2014年2月)と増えていた。

⁷⁸ 悲田院、施薬院では、930年、疫病が流行した際、食料大男大女各米一升、塩一匁、滓醬(さいしよ)一合、小男小女米六合、塩五撮、滓醬五匁を配給。『慈善救済史料』辻善之助 金港堂 1932年 188頁。

⁷⁹ 拙論「キリスト教と福祉—新型コロナウィルスの救い」神戸国際キリスト教会 2020年4月19日 58頁。極東の地にあっても、病人、弱者、貧者を顧みる「風」(ヘブライ語 רוח רוּחַ *nwach*)が人々に及びました。「たとえ律法を持たない異邦人も、律法の命じるところを自然に行えば、律法を持たなくとも、自分自身が律法なのです」(ローマ 2:14)。『日本貧困史』(吉田久一[きゅういち]川島書店 1984年の16ページ)には、797年に、近畿周辺に浮浪人帳作成があったと記録されている。

⁸⁰ 『新明解国語辞典』(第七版)によると、「宇宙間の万物の本質は空であり、不変の物は何一つとして無い」という仏教の基本的な考え方と説明。

⁸¹ 『(宗教)の核心』—西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』(竹村牧男 春秋社 2012年 32-33頁)。

⁸² 拙論「キリスト教の用い—現代問われている死生観」(日本「祈りと救い」ところ)学会 2016年)。

<http://kicc.sub.jp/2016/11/07/%E3%80%8C%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%AE%E5%BC%94%E3%81%84%E2%80%95%E7%8F%BE%E4%BB%A3%E5%95%8F%E3%82%8F%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E6%AD%BB%E7%94%9F%E8%A6%B3%E3%80%8D/>

⁸³ ホルミス(Hormesis)とは、「刺激する」を意味するギリシャ語のホルマオ(*ὁρμάω* ホルマオ *hormao*)に由来。ホルモンと同じ語源である。『放射線ホルミス』II(T.D.Luckey 山田武訳 1992年ソフトサイエンス社 1993年 36頁)。ラッキーは序で、「高令の日本の原爆被曝生存者において、がん死亡率の増加は見られない。一千万匹を用いた動物実験は、低線量の電離放射線に何の危険もないことを示している」と記している。根拠として、1990年発行の『放射線ホルミス—微量放射線の生物刺激効果—』の42ページで、「被曝した母親から生まれた77,000の子孫についての研究で、遺伝的影響がなかったことである。不妊、免疫力の低下、悪性腫瘍以外の死亡率の増加も、広島—長崎の生存者285,000人の中には発見されなかった。」

⁸⁴ 『放射能はこわい ウソ』(服部禎男かぎひの文庫 2014年)。服部は東京大学工学博士。1960年浜岡1号原発計画推進。1984年ラッキーの論文を発見。「人間の身体は放射能が嫌い」と全世界に発信。『「放射能は怖い」のウソ』(服部禎男 太陽出版 2014年 76,90-97頁)。

⁸⁵ 1999年1月24日、岸和田聖書教会の講師に招かれた際、そこで奏楽者神田啓治教授[1938-2020 日本の原子力工学者。当時京都大学原子炉実験所核燃料管理室長]と出会った。神田は、電力中央研究所名誉研究顧問であった。電力中央研究所に対する警戒感が原因となった。

⁸⁶ 1946年兵庫県生。大阪大学医学部卒業。同大学名誉教授。医学博士。日本放射線ホルミス協会理事長。『福島を原発の風評被害から救え』(中村仁信「鶯の声」25,33頁)。「ホルミスとは、……微量であれば体にいい影響がある」(『低量放射線は怖い』游タイム出版 2011年90頁)。

AかBかという二元論的選択は不適切であることをキリスト教会の講壇から、文章の中で、人との会話の中で一貫して語ってきた。福島第一原発5,6号機の核燃料プールで水漏れなど、耳にすると、放射能について無条件に反対してきたからである⁸⁶。看病、家事、ボランティア道のはたらきで、肉体的、精神的、社会的に限界に追い込まれていた。自分の命を引き換えに配偶者を助けたい。それでラジウム温泉、あれほど忌避していた低線量の放射線利用など、なんでも禁令を犯してでもカヨ子から激痛なく熟睡できるようにしてあげたい。宗教者である前に、愛おしい妻のために「健やかなときも、病めるときも」、という聖約の責任が訴えてくる。今度は悪魔がささやく、「おまえをここまで一人前の男にしたのはだれた。恩人を見殺しにするのか」、と道を歩くとき、運転のハンドルを握っているとき、骨と皮だけに痩せ細っている妻の足をさするとき、冷静な判断力が凍てついている。どんなに東北ボランティアに回数を増し加え、国境を渡河して、ネパール、バヌアツに行けたのも自分の唯一の理解者である存在があったからだ。その守護神、助け手が死人同様にもはや自力で立ち上がることができない。受講生たちに一緒に歌うヘブライ語授業。「レヴタホールベラリーエロヒム……」⁸⁷、喉がふさがって声にならない。受講料をもらって、生活費を持って帰る。ほほえみながら受け取る相手はいない。聖書展示館として命がけで東奔西走した神戸バイブル・ハウスからもお払い箱扱い、『目薬』誌廃刊、牧師会からもお役御免、阪神・淡路大震災以降、ゼロからはじめた教会、忠実な信徒もわたしを見捨て、去って行った。時にはたった3人で日曜礼拝をするときの空しさ。生活のための英語クラスの生徒もわずか数人になった有り様。みんないなくなった。そんな逆境にあつて、自ら命を絶つことをとどめたのは配偶者であった。つかの間に、山野を一緒にドライブし、ひなびた田舎の温泉で平素の労をねぎらうことも過去時制になってしまった。兵庫県立がんセンターでは治療し尽くしたと、引導を渡された。明石にある和食の店で、楽しく夕食している途中、歩けないと発した。現実なのか、半信半疑で車椅子を借りて、車に乗せた。店の方たちは丁重に見送ってくださった。まだ夢の出来事しか思えなかった。家にたどり着く頃には、だいたいぶだろうと。自宅前、背筋をいつもスツとして歩く力がもう肢体から消えていた。はいつくばること、おんぶしてもらう筋力も残ってなかった。にもかかわらず顔は穏やかである。声も表情も冷静であり、どこから見ても天使のように美しかった。その差異のため、自分が何をしているのか、信じられなかった。自宅療養といってもそれからはすべてわたしがすることになった。闇に覆われた自宅。乾燥仕切った台所。週一回の訪問医師、薬を届ける薬剤師が不馴れな炊事を見て、あきれかえっていたにちがいない。その場から逃げたくなる。玄関を一步外に出ると、ボランティアのボスの顔をしている。だが、被災地でも、家庭でも、職場でも何もできないでくのぼう。京都学派の創始者西田幾多郎[1870-1945]は、肉親(姉・弟・娘2人・長男)の死に遭遇した。「わが心深き底あり喜も憂の波もとどかじと思ふ」、と⁸⁸。妻を失った寸心(西田幾多郎)は、「自分の過去といふものを構成してゐた重要な要素が一時になくなると共に自分の未来といふものもなくなつた様に思われた喜ぶべきものがあつても共に喜ぶべきものもない、悲しむべきものがあつても共に悲しむものもない⁸⁹」、と1927年2月9日に親友の山本良吉に手紙を書いている。「もはや私というものはないのだ」、と自失している。日本放射線ホルミシス協会関係の学者たちのささやきに屈した。放射線が出ているホルミシスシート(ヌーシート)を購入した。妻を助けたい一心とは言え、偽善⁹⁰、欺瞞、ペテンそのものだ。原発反対を2011年の

⁸⁶ 拙稿季刊誌『支縁』No.13(2015年1-2頁)。

<http://kicc.sub.jp/2014/10/12/%E3%83%95%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%9E%E5%8E%9F%E7%99%BA%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%85%B1%E8%8B%A6/>

⁸⁷ 詩編51編12節にメロディがついている。『マクヤイスラエル・ソング集』(キリスト聖書塾編集1997年105頁)。「神よ、私のために清い心を造り私の内に新しく確かな霊を授けてください」(詩編51:12)。その文脈でダビデが吐露している。「あなたはいかにえを好まれません。焼き尽くすいかにえを献げてもあなたは喜ばれません」(同18節)G

⁸⁸ 『西田幾多郎全集 第12巻』(西田幾多郎 岩波書店1966年188頁)。「憂」までが届かない心について、『西田幾多郎の憂鬱』(小林敏明 岩波書店2003年109頁)には、西田自身のアイデンティティ・クライシスをさえ吐露しているのでは、と小林敏明は註解している。

⁸⁹ 『西田幾多郎全集 第18巻』(同322-323頁)。

⁹⁰ 聖書の偽善は、「言うだけで実行しない」(マタイ11:28)と、わたしは説くが、ヘーゲルは、「悪と、^{やま}疾しき良心を抱えて行為することとは、まだ偽善ではない。偽善のうちには、さらに嘘^{やま}非^{やま}真^{やま}実」の形式的限定が加わるのである。ニムロドのようにさかも敬虔

福島第一原発事故の前から、市民運動、教会やいろいろなところで、放射能の危険性、小児性甲状腺ガンについて先頭に立って語ってきた。農法を宮城県石巻市渡波で始めた時、セシウム137と134に対して田んぼの生物が放射能物質の天敵になるかどうかの試みなど、一貫して、原発反対側であった⁹¹。

みんなに顔向けができない。信頼して、3.11以来、息子として付いてきている村上裕隆[1990-]、小学校時にわたしと出会って、夫婦共々家族同様になった本田寿久[1961-]・洋子夫婦。女房役の彼がいなければなにひとつできなかった。2016年以来、初対面の人には、「ペテン牧師 岩村義雄です」と自己紹介するようになった。顔を何度洗っても、自分の胸の中では、自由の篡奪者がひるむ機会をこしたんたんと狙っている。悪魔⁹²、デビルは人格をもった霊者ではない。部屋の隅で、黒いマント、フォークのようなモノをもったデーモンではない。「良心が痛む」(ヘブライ語 לֵב יָכַבְהוּ yakleb<心を打つ意>)(IIサム24:10)。壮絶な焦燥のうずが天井、床、あらゆる隅にまで延長している。妥協できない対立のため、顎が出て、口を真一文字に閉められない。鼻ではなく口で息をしている。2011年3月20日以降、わたしは東北の地で、津波、地震、メルトダウン(炉心溶融)の地獄絵を見てきた。不条理に亡くなった死者との対話もしてきた⁹³。わたし自身が死者にとりなす霊能者とみなされたこともあった⁹⁴。うさんくさい、と塩富町の海苔養殖の丹野典彦は笑いながら言いのけた。宮城県石巻市南浜町のタクシードライバーが幽霊⁹⁵を乗せ、会話をしているのではない。原罪⁹⁶があるゆえに、煩惱なのか。否、そうではない。偽善者の属性らしく、秋の空のような雲ひとつない晴れ間が遠のいてしまった。「色不異空 空不異色」。形あるすべてのものは形ないすべてのものに変化していくが、一方通行で折り返せない。「我、十二年の間修する所の善根、今日極樂に皆回向す」(『今昔物語』第15-31巻)から脱落している。深呼吸をするのだが、へそのあたりまで新鮮な空気が入ってこない。気がよどんでいる。蛇蝎の心である。ボランティア先でひとりになると、だれもいない荒野で、雑草の先をむしりながらは地べたを這っている。いずれにしても「霊体化」をくり抜ける旅が続いた。

10. 内なる人の繰り返す良心のまひ

であるかのように振る舞うことが詐欺の一手管であろう。使徒行伝5章のアナニアとサフィラの虚偽の例がある。『法権の哲学』(G.WFヘーゲル三浦和男・樽井正義・永井建晴・浅見正吾訳未知谷1991年296頁)。

⁹¹ 拙稿「田・山・湾の復活」(季刊誌「支縁」No37 2021年4頁)。

⁹² 拙論「石の叫びに敏感であろう」(宮城学院女子大学・大学院 2017年9-10頁)。「どちらを選択するのかという揺れは悪魔にもたらされます。悪魔は外から迫害によって脅し、誘惑によって人を惑わす存在だと思っている人がキリスト者を問わず、多いでしょう。悪魔はギリシャ語でδίαβολος ディアボロス[英語デビルの語源]です。ディアボロスは前置詞のδιά ディア(二つ) +βάλλω バロー(ぶつかる、突進する)の合成語です」。

⁹³ 拙論「キリスト教と福祉—新型コロナウイルスの救い」(2020年12頁)。「宮城県石巻市を訪れた2011年3月21日、24人が津波により犠牲になった地点がありました。海から約1キロ、伊原津地区にある精神科の病院で、1階の天井まで津波が流れ込みました。通りかかった時、背筋が冷たくなりました。1階で怖くて興奮して大声を出している患者の口、すごい牙相の目、上の方に向かって手を挙げてまがいています。10日経っていますから、こわれた窓の中にあるのは、もういるはずがない死者でした。」

⁹⁴ 2011年6月、ボランティアの移動の時だった。石巻市の門脇小学校前を近道でとおりにぬけようとした瞬間だった。夕暮れ時だ。門脇町出身だが都会に生活をするようになって戻って来ていたんだろう。独りで40歳くらいの女性が茫然としていた。見渡す限り家、人、何もない。高台に登れば、南の方には大津波が押し寄せて来たとおぼしき石巻湾が見える。空き地、破壊された家の基部らしき破片が無残にさらされている地面に座り込んでいた。津波で自分の家、行方不明の親、向こう一面、人、灯り、家も流されてしまったのだろう。怪我をしている様子でもなかった。ただ茫然としゃがんでいる。わたしはお近くを通り過ぎて、メンバーたちの食事を運ぶ予定だった。生い茂った雑草を払いながら急いでいた。「おっさん(東北では和尚さんのこと)、……お経を……」、ととげん請われた。涙のため、わたしが僧侶だと思いついたんだとしか考えられぬ。わたしは状況がつかぬまま、とっさに、花が手向けである前で、「摩訶般若波羅蜜多心経」と読経し出した。昼間、家具を搬出してやりたせいか、声が口からは出ていない。腹からだ。三代目のローマ・カトリック教会で育ったから、お経など何も知らないのに。「観自在菩薩」と口から異言を語るように言い終わった時、「非思慮底」の「無明」の境地で、向こうへ(pararam)到達した。ネパールでもネパール語が分からないまま、高い山の中で屍を村人が焼いている場に遭遇した時、わからないままだにヒンドゥー教の祈りをみんなと唱えたカイロス*であった。

*クロノスは、流れる時間を表すtime。一方、カイロスはある出来事が起きる前と後では、歴史に断絶が生じるといふ意味の時間を示すtiming。

⁹⁵ 『呼び覚まされる霊性の震災学—3.11生と死のまざままで』(金菱清新曜社2016年10-12頁)。金菱清(かぶひし1975-)大阪府生 関西学院大学大教授。

⁹⁶ 原罪とは、original sin <peccatum originale カトリック教会はオランジュ公会議(529年 Councils of Orange)において、原罪の教義は教父アウグスティヌス(354-430)の教えであり、西方教会の重要な告白になった。「多元主義(Pluralism)」においては躰きとなる。拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学チャペル 2021年11月18日6頁)。アウグスティヌスの「原罪」観にはマニ教の残滓があった。一方、オリゲネスは原罪が救いの喪失とは言明していなかった。『キリスト教思想の形成者たち—パウロからバルトまで』(キョク 片山寛訳2018年63頁)。

いくら東北ボランティアで留守をして配偶者に寂しい思いをさせているからといって、言い訳にはならない。また、神がなぜ無慈悲な末期ガンの痛みを与えるのか、沈黙しておられるのはどうしてか、内心のどこかに神を讒訴していたのか、否定する内住の自分と、受容することは認める自分を同時に行っている。分裂しているからさしずめ自己は狂人なのだ。否、そうではない。なぜなら精神と肉体が分裂しているのではないからだ。セーレン・キェルケゴール[1813-1855]は必然性の絶望は可能性の欠乏に存すると言った⁹⁷。絶望だ。公称 22 万から 30 万人の日本人のキリシタンが根絶された。棄教を拒んだ者のうち記録に残されているだけで約 4000 名が処刑された。その日本で潜伏布教中のフェレイラ神父が転んだとの報に接し、決死の覚悟で来日した宣教師たち。全員棄教に追い込まれる拷問に次ぐ拷問。江戸の切支丹屋敷に収容された転びのキリシタン。遠藤周作は『沈黙』の中で、史実上、存在したキャラ神父について歴史小説を仕上げる。遠藤はわたしが幼児洗礼、堅信式を受けた聖イグナチオ教会の信者でもあった。小説の中で、キャラ神父は、ロドリゴという名前で登場する。

「司祭は足をあげた。足に鈍い重い痛みを感じた。それは形だけのことではなかった。自分は今、自分の生涯の中で最も美しいと思ってきたもの、最も聖らかと信じたもの、最も人間の理想と夢に満たされたものを踏む。この足の痛み。その時、踏むがいいと銅板のあの人は司祭に向かって言った。踏むがいい、お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生まれ、お前たちの痛さを分かたつため十字架を背負ったのだ。こうして司祭が踏絵に足をかけた時、朝が来た。鶏が遠くで鳴いた。」

「切支丹屋敷役人日記」に、ロドリゴが自分の本当の姿を知ったとき、イエスの赦しの愛がわかったというのである⁹⁸。

11. 御用学者に挑んだ良識ある樫の木

首相官邸の「原子力災害専門グループ」は放射能の安全を証明しようとした。科学者は安全論、楽観論が共通しており、低線量被ばくによる健康影響は小さく、かえって健康により影響があるという方向での研究に力を入れてきた。五十音順、肩書は 2011 年 8 月当時

遠藤 啓吾 京都医療科学大学 学長

神谷研二 広島大学原爆放射線医科学研究所 所長

児玉和紀 (財)放射線影響研究所 主席研究員

酒井一夫 (独)放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター長

佐々木康人 [社]日本アイソープ協会常務理事(前 放射線医学総合研究所 理事長)

長瀧重信 長崎大学名誉教授(元(財)放射線影響研究所理事長, 国際被ばく医療協会名誉会長)

前川和彦 東京大学名誉教授((独)放射線医学総合研究所緊急被ばくネットワーク会議委員長, 放射線事故医療研究会代表幹事)

山下俊一 福島県立医科大学副学長, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長

上記のメンバーが放射能の危険性を消火してしまった。

⁹⁷『死にいたる病』キェルケゴール 斉藤信治訳 岩波文庫 1992 年 61 頁。「信ずるというのは実に神を獲得するために、正気を失うことにはおぼろげでない」。

⁹⁸『日本文学のなかの聖書』大田正紀いのちのことば社 1993 年 88-92 頁。大田正紀[1949-]は神戸国際支縁機構の理事。「遠藤周作の「日本」理解は、「風土的限定を超える」はずの和辻哲郎の人間学を枠組みの中に閉じこめたといつてよい。……遠藤の素朴なカトリック信仰はフランス留学を通じて、二元論で大量虐殺をした狂気の爪痕の見聞から信仰の懐疑が生じた。……遠藤によれば同伴者イエスの「無力」と見える愛を生きること」と、大田は描写している。

兵庫県立図書館で国会図書館から取り寄せてもらったラッキーの書物を皮切りに、カヨ子の生老病死愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦の「苦」を除くために、原発関係を100冊近く片っ端から読んだ。

読めば読むほど、上記の学者、つまり専門家たちは原子力の安全性を説く。被ばくの危険性について沈黙する。マニュアル通りならば原発は安全という。父親が医師であった遠因もあろうが、生来の人一倍強い正義感をもつ島蘭進⁹⁹[1948-]は、低線量被ばく、放射能汚染、ホルミシスについての危険性を丹念に追究した。科学者たちによって、つくられた放射線「安全」論を論駁した功績は金字塔である¹⁰⁰。

一方、御用学者たち、テレビのコメンテーターたち、専門家たちは、一体、何を動機として発言していたのか。厚労省、経産省、文科省の主導した国策の宣伝を手伝うことで利得のチャンスがあるのは氷山の一角にすぎないだろう。実利のためにお茶の間で安全論を展開したとは考えられない。推察できることは、虚偽、フェイクな情報、政権に忖度する動機は、エクスーシアに抗う正義の味方気取りの連中に制裁を加える真の「正義」論者としての自負があったにちがいない。第二次世界大戦前、戦時下の「大政翼賛會」[1940(昭和15)年10月12日～1945(昭和20)年月13日]の体質は戦後もゾンビのように復活している。官製国民統合団体であることを忘れてはならない。最近では「日本会議」が相当するだろう。「エクスーシア主義的パーソナリティ」の持ち主が群生しているという事実ではなからうか。10年前、3.11福島第一原発事故の際も、多くの「御用学者」が構成員となった「原子カムラ」の体質をゆめゆめ忘れないでいただきたい。自律した「道徳」、「徳」、「靈性」の基準もたない官製護送船団である。失政、日本丸の綻び、リスクを糊塗するならず者たちの類である。つまり人格において、日本の将来のリスクを警告する使命感を持ち合わせておらず、集団自死行為に陥ろう。否定の論理を持ち合わせていないから、反省、責任、普遍的価値観は見いだせない。彼らの樂觀論、無知、虚偽によって苦悩をなめた水俣病患者がいた。ノンフィクション作家の柳田邦男[1936-]は、この国の根本的ゆがみを記した。「環境省は従来の『設定基準』を改めようとしなさい。専門家が検討して決めた基準であり、十分な根拠があるというのが、表向きの理由だ」と痛烈に国家に対して非難している¹⁰¹。第二次世界大戦前、戦時下に生物兵器を中国人に人体実験した医師たちの731部隊は、犯罪がちゃんと清算されず、戦後医療界の主要ポストに君臨した。1980年代後半からエイズの原因ウイルスであるHIVに感染させる問題を引き起こした¹⁰²。感染症研究機関の多くが戦前の軍関係の機関にそのルーツをもつこと、その起源と歩みが今次の関係者の振舞いなどのように影響しているのかは、分析・考察されなければならない主題である。島蘭進は、上記の御用学者、専門家の言質が科学から道はずしたことを諫めた。

12. 価値両義性(アンビヴァレンス)

さしずめ宗教者ならば、ミルチャ・エリアーデの「両義性」で相対する両極を考察されるだろう。たとえば、ユダヤ教のイスラエルの祭司たちも、うなじがこわく神に反逆すると神の怒りを被るが、供え物によって神が宥められ、平安を体験する。新約の使徒行伝、ローマの信徒への手紙に出ている「プリスキラ(プリスカ)とアクィラ」は妻である女性が先に名前が出ている。一方、コリントの信徒への手紙一7章29-31節では、順序は「夫」がかしらとして先になっている。こうした両価性の視座はユダヤ教、キリスト教、イスラーム教、仏教にも見られる。

⁹⁹ 島蘭進は宗教学者。東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授。(社)神戸国際支縁機構の理事。

¹⁰⁰ 『つくられた放射線「安全論」』島蘭進 河出書房新社2013年。「放射線の健康影響をめぐる問題であらわになってきているのは、専門家が「無用な不安を除去すべきだ」と主張して市民を抑圧するという事態である。人々の孤独と不安が社会を脅かしていると捉える論者は、全体主義の時代から数多く積み重ねられてきた。だが、二一世紀に入り、「リスク社会」が問題になるようになって、新たに目立つようになってきたのは、専門家が適切なリスク認識を教えることで「不安」を統御すべきだと説く言説である。こう説くことによって、専門家が「市民」あるいは「大衆」の自由を抑圧するという事態が目立つようになってきた。エリートこそが自由の担い手で、大衆が足を引っ張るというのではなく、むしろエリートこそが「不安の排除」という形で、大衆と対立しつつ抑圧していくのである。」『原発と放射線被ばくの科学と倫理』島蘭進 専修大学出版局2019年95,96頁。

¹⁰¹ 『水俣病50年—「過去」に「未来」を学ぶ』多田昭重 西日本新聞社2006年290-291頁。

¹⁰² 『七三一部隊—生物兵器犯罪の真実』常石敬一 講談社現代新書1995年168-169頁。

宗教民俗学者である宮田登[1936-2000]¹⁰³によると、日本のカミ観念には、二つの対立する側面が一つに統合されている。「崇る」と、「守護する」のような具合である。怨霊はたいへん激しく崇るカミに民が丁重にもてなして祀ると、崇りはすみやかに消滅し、今度は守護神になる。宮田は、対極措定は、認識上の便宜(分別)としては意味をもつても、事実どおりの認識(無分別)とほど遠い。分極化するように見えても、努力と時間によって、対極は消え、一つになる。西洋の二元論、一元論とは別な、両者とも生かす世界観をつかむのがインド人、中国人、仏教の地域の特徴とする。仏教者の世界観は「不二而二」(advaita-dvaita) 二ではなくして、しかも二であること。「二而不二」(dvaita-advaita) 二であって、しかも二でないこととする¹⁰³。

ホルミシス(放射能低線量)は癌患者にとり、有効か、むしろ安全でないか、どう判断すべきか。七転八倒するカヨ子を介抱しながら、ホルミシスは用いるべきかどうか、アメリカ教¹⁰⁴の二元論では解決できない。次に、二律背反¹⁰⁵の価値両義性のどちらも首肯はできなかった。即身仏のように息をひきとった妻を同日わたしが司式をして葬った。もはや二元論の視座でもない。また両義性で物事を視る価値観からも卒業した。わたしに存在 existence「ある」だけでなく、今、presence 現前「(人間にだけ)いる」(い)はる、(いて)はる方が観える(マタイ 28:20)。「まことに、あなたはご自分を隠される神(ラテン語 deus absconditus)なのか」と問うこともなくなった(ハバクク 1:2)。カヨ子は神学校、哲学、修道院など学んだことがなかった。しかし、高僧、枢機卿、聖職者にも引けを取らない性相、徳、控え目な靈性を放っていた。わたしは聖職者失格だが、彼女によって、聖い立場を神の前で是認され続けたことを感謝している(I コリント 7:14)。

ベトナムの仏教僧ティック・クアン・ドック[1897-1963]¹⁰⁶が焼身自死をもって、弟子のティク・ナット・ハン¹⁰⁷に示したのと同じだった。エリヤのmantをエリシャが受け取った。ハンは2022年1月22日、で涅槃に入った。ティク・ナット・ハンはベトナム語でタイ(師)と呼ばれる。わたしもそうさせていただく。タイが米国で1968年4月4日、ローマ・カトリック教会の神学者ハウス・キュング[1928-2021]の講義を受けていた時だった。マルチン・ルーサー・キング[1929-1968]牧師が暗殺された。黒人たちの暴動、仕返しがあるといううわさが全米に広がっていた。わたしは怖じ惑っていた。親しい黒人が口をすっぱくわたしに外出しないように何度も釘をさした。愚者なるわたしはアルバイトをしていたシカゴ市ディア・ポーンストリートのレストランに足早に行った。街は静まりかえっていた。だれも来客はなかった。アメリカ第2の活気のある華やかな商業都市とは思えなかった。それから2年後、マニラの国際会議に出席直後、ベトナム17度線に、わたしはいた。口では大仰にも平和を実現するために来たかのように振る舞っていた。内心、ベトナムに狙撃されるのではと、臆病であった。シカゴで、ベトナムのホーチミン(サイゴン)でも、タイとは一瞬もお出会いしていない。ベトナムの難局に実践しているタイとは雲泥の差であった。タイが大人なら、わたしは赤ちゃんだった。ベトナム料理を楽しみ、ボートピープルとして脱出するチャンスを探している若者たちと国際会議をしていた。ベトナムの民族服アオザイを着ている女性たちにのぼせていたにすぎなかった。タイが命がけで祖国のために毎日祈り、瞑想し、沈黙の食事をし、あらゆる修行をしていた鍛錬をしているのとは大違いであった。肉体の接点がなかったとはいえ、配偶者の死を通して、またタイの生き様を通して、啓示された価値観がある。価値両義性(アンビヴァレンス)

¹⁰³『空海即身成仏義』(金岡秀友かなおかしゅうゆう 太陽出版 1985年 17,22-23頁)。

¹⁰⁴ファンダメンタリストたちは、十字架を信じなければ地獄、聖書通りに忠実に生きるという原理主義。

¹⁰⁵二律背反 antinomy アンチマーカントが用いた。「世界に始まりはある」「世界に始まりはない」のように、互いに矛盾するが、双方それなりに説得力あるペア。「neversaynever」。

¹⁰⁶ベトナムの仏教僧ティック・クアン・ドック[Thích Quang Duc 1897-1963] 1963年6月11日、南ベトナムのゴ・ディン・ジエム政権が行っていた仏教徒に対する高圧的な政策に、ガリンをかぶって即身仏となった。

¹⁰⁷ティク・ナット・ハン(Thích Nhất Hạnh [1926-2022])は、ベトナム出身の禅僧・平和・人権運動家。孤児たちの社会的支援や、死体の回収など。爆撃を受けた村の再建や、学校作りなどを手掛けた。ドックの即身仏は、37歳の時、大きな衝撃となった。ハンも教えを受けた高僧が自らの身を捧げたからである。2012年、ウェストミンスター英国議会及びブリストルの北アイルランド議会に招かれ、慈悲と非暴力のメッセージを伝えた。2022年1月22日、ベトナムの自坊で遷化、世寿96歳。今や、ハンスのマインドフルネスという静想が世界中に広がっている。

でもなければ、二項対立の弁証法でもない。WCRP 平和大学講座のテーマ、「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」への直接の回答であろう。

13. 非宗教家の悪 —創造的復興, 内部被ばく, ダム, 原発の再稼働, コロナ禍のウソ

「創造的復興」という言葉は、チェコの経済学者ヨーゼフ・シュンペーター[1883-1950]に由来する¹⁰⁸。復興をわたしは Reconstructionではなく、Restorationがふさわしいと関西学院大学のチャペルで語った¹⁰⁹。理由は、外見のハコモノを中心とするのではなく、被災者の心の復興こそが望まれるからである。つまり震災以前の古い計画を焼き直すならば、「修復」、「修繕」という Renovationだからである。国からの復興予算を用いて、役人の強欲な野心の実現の材料になった、すなわち上部構造の修復で終始したのである。真の復興ではなかった。ローマ帝国のように衰亡の一途を辿ってはいないだろうか。そこで、「変革」Regenerationをマルクス¹¹⁰が言うように、エネルギーを加えて、貧者が苦悩する制度を新生することは可能だろうか。

プラトン[紀元前 427-347]著の『テアイテトス』によると、人間が造られた材料を用いてではなく、永遠の存在していた物質でデミウルゴスが世界を創造(ラテン語クレアチオ・セクンダ)することである。しかし、ユダヤ教、キリストの道は「無から有を生じる」(ラテン語クレアチオ・エクス・ニヒロ Creation ex nihilo <無からの創造>)を信じてきた¹¹¹。したがって、震災の度に、都道府県の首長が「創造的復興」をバーゲンセールのように用いるのは奇異としか言えない。なぜなら震災後に、無から有を生み出す戦略ではないからである。巨大プロジェクト、ハコモノを「創造的復興」とはやし立てるメディアは、技術至上主義の応援団、御用聞き、批判を忘れた旗手と言えよう。

政府や国によって主張されてきた災害復興の理念は、大規模公共事業をテコとする経済成長・開発優先型の復興であった。この成長・開発優先型復興は、阪神・淡路大震災では「創造的復興」¹¹²と呼ばれ、それ以後の復興政策へも踏襲されてきた。創造とは既存のエクスターニアや概念、その時代の常識への挑戦。権力に従属、追従して、独創的研究など生まれるはずはない。権力への追従は、社会にとって害毒を流すだけではないだろうか、個々の研究者の創造的な研究を妨げる。

大規模なハコモノを造り、原状回復以上を目指す、過剰な社会資本を作りだしている。阪神・淡路大震災の後、住宅再建政策は被災者への支援ではなかった。復興予算は非効率的な公共建造物に集中した¹¹³。

復興事業で新長田の再開発は神戸空港と共に最大規模であった。巨大事業で負荷がかかったにもかかわらず、赤字が膨らんだ再開発の失敗例である。復興災害と地元で言われている¹¹⁴。商業床が売れ残っている。阪神・淡路大震災後、神戸市が大規模に進めた新長田駅南地区開発事業(約 20 分)は、巨額の 500 億円を越す赤字が見込まれている。ハコモノ優先したことに起因している。地場産業のケミカルシューズの衰退は憂慮すべき問題のひとつだ。

¹⁰⁸ 『資本主義・社会主義・民主主義』(J.A. シュンペーター 中山伊知郎、東畑精一訳 東洋経済新報社 1952 年 146 頁)。「組織上の発展は、不断に旧きものを破壊し新しきものを創造して、絶えず内部から経済構造を革命化する産業上の突然変異—生物学的用語を用いることが許されるとすれば—の同じ過程を例証する。その「創造的破壊」(Creative Destruction)の過程こそ資本主義についての本質的事実である」からの造語。シュンペーターは、オーストリア・ハンガリー帝国(後のチェコ)モラヴィア生まれ。

¹⁰⁹ 拙論『キリスト教と復興』(2021 年 11 月 18 日 3,15 頁)。

¹¹⁰ 福音派、二元論でしか物事を判断できない人々の中には、マルクスの名前を使うだけで、マルクス主義者と断定する人もいる。マルクスの社会分析、官僚批判は、必ずしも唯物論とか無神論を肯定することにはならない。『日本にとって解放の神学とは』(相馬信夫・アンセルモ・マタイス・酒井新二 中央出版社 1986 年 82-83 頁)。

¹¹¹ “Biblia Sacra Vulgata” R. Weber Deutsche Bibelgesellschaft 1994 p.1494. “peto nate aspicias in caelum et teret intellegas quia ex nihilo fecit illa Deus et hominum genus” (II Macchabe 7:28) fecit = creavit creasse (不定動詞形の定形動詞は、creavit. 『ウルガタ訳聖書』の外典第二マカバイ記 7 章 28 節のラテン語 ex nihilo fecit illa は「無から創造した」(岩村訳)から定着して用いられるようになった。

¹¹² 『大震災 100 日の記録: 兵庫県知事の手記』(貝原俊良 ぎょうせい、1995 年 174-180 頁)。

¹¹³ 『大震災 15 年と復興の備え』(塩崎賢明・西川榮一・出口俊一 兵庫県震災復興研究センター編 クリエイティブかもがわ 2010 年 18-19 頁)。

¹¹⁴ 『神戸新聞』(2022 年 2 月 3 日付)。

お上が主導ですと、震災前からの計画を焼き直し、「創造的復興」と喧伝する。

人口流出が著しい。この11年間の間に人口が5分の1に減った島が宮城県にある。東日本大震災の津波で女川町の出島は現在60世帯96人が暮らす。診療所も流され、島に医師はいない。小・中学校は廃校となった。子どもがいる家族は島から引っ越した。震災の影響だけでなく、漁業で生計がたてにくい¹¹⁵。2010年沿岸漁船漁家の全国年間平均漁労所得は186万円という現実がある¹¹⁶。

2019年9月9日に台風15号、10月12-13日に19号が東日本を縦断して、集落全体の被害があった千葉県南房総の布良で、漁ボランティアに仕える。かつて日本一の延縄漁で振るった地域である。5件しか漁師は残っていない。船を走らせるにも燃料である油代がかかる。油代や網の修理などを引くと、残らない。収入は年間100万円を超えることはない、と嘆く。日本全体でも52.3パーセントが100万円以下だ。だから空き地で野菜作りをし、自給自足をせざるを得ない。

農業、林業と同じように、後継者不足、高齢化の波は容赦ない。

阪神・淡路大震災の場合、行政がトップダウンで、区画整理事業を強引に推し進めた。「アスタくにづか」1番館ではシャッターを閉めた店が目立つ。復興とは、景観が良くなったとか、町並みが元通りになったということではない。被災者の心のケア、つまり心の復興が重要である。高層ビルに入居する商店の主人は高齢にもかかわらず、15坪ほどの小さな店で月額7万円前後の高い管理費と固定資産税を払い続けなければならない。しかし、店のあるショッピングモールにはお客さんはほとんど入って来ない。年金から経費を払うともう何も残らない。生きていくこともおぼつかない人たちに、行政は「自助努力で頑張れ」と迫る。弱い立場の人たちへの思いやりという視点が欠けている¹¹⁷。「当時40代前半だった方は、定年の年代である。60歳で被災した人は80歳を過ぎる後期高齢者だ。そうした被災者に、神戸市や西宮市は、借上げ復興住宅から立ち退きを迫る裁判を起している。終の棲家から被災者を追い出すのに、行政は司法の力を用いている。」エクスーシアを持つ国家、地方行政が無策なことに、宗教界はどんな責任をとろうとしているのか。

¹¹⁵ 『朝日新聞』(2022年1月7日付)。

¹¹⁶ 『平成30(2018)年度水産白書』。

¹¹⁷ 『心の復興』がなござりこされた阪神・淡路大震災』(『クリスチャントゥデイ』2018年1月17日)。

<https://www.christiantoday.co.jp/articles/25079/20180117/great-hanshin-awaji-earthquake-23-years-pastor-iwamura-yoshio.htm>